

2024年度中間決算の概要

(2024年4月1日～2024年9月30日)

2024年10月31日

山陽特殊製鋼株式会社

<https://www.sanyo-steel.co.jp/>



目次

1. 2024FY中間決算および2024FY業績予想

2024FY上期損益の概要

事業環境、欧州事業環境

2024FY業績予想

2024FY中間配当および配当予想

2. ESGへの取り組み

3. 決算および業績予想の詳細

業績推移(四半期)、セグメント別損益、貸借対照表(連結)、キャッシュ・フロー計算書(連結)

経常利益の変化要因(2023FY上期→2024FY上期、2024FY1Q→2024FY2Q、

2024FY前回予想→2024FY今回予想、2023FY→2024FY今回予想、

2024FY上期→2024FY下期今回予想)

OVAKOの状況、SSMIの状況

4. トピックス

5. 2050年カーボンニュートラル(CN)実現に向けた取り組み

6. 参考資料

主要市場動向

業績推移(年度)、設備投資・減価償却費の推移、D/Eの推移

損益の詳細等

1. 2024FY中間決算および 2024FY業績予想

2024FY上期損益の概要 (対2023FY上期)

連結経常利益26億円(前年同期比-52億円)

売上数量の減少、OVAKOの一過性影響の縮小により、減収減益

外注・物流面を含む労務費の上昇も踏まえた販売価格の改定によるマージン改善があったものの、売上数量の減少やOVAKOの一過性増益影響の縮小などにより、前年同期比減収減益。

(単位：億円、%)

	2024FY上期 (A)		2023FY上期 (B)		増減 (A)-(B)	
	金額	売上高比率	金額	売上高比率	金額	増減率
売上高	1,684	100.0	1,853	100.0	-168	-9.1
営業利益	31	1.8	73	4.0	-42	-57.6
経常利益	26	ROS 1.6	78	ROS 4.2	-52	-66.3
内、当社単独	53	6.6	69	7.2	-16	-22.9
内、OVAKO	21	2.9	51	6.8	-30	-59.4
内、SSMI	4	3.2	3	2.8	+1	+25.0
内、のれん償却費	▲17	-	▲16	-	-1	-
税後利益 (注1)	15	0.9	52	2.8	-37	-70.7
のれん償却費を除く税後利益	32	1.9	68	3.7	-36	-52.4
売上数量 (千t)	683	113.8 /月	739	123.2 /月	-56	-9.4 /月
内、当社単独	367	61.2 /月	427	71.2 /月	-60	-10.0 /月
内、OVAKO	259	43.2 /月	256	42.6 /月	+4	+0.6 /月
内、SSMI	56	9.4 /月	56	9.4 /月	+0	+0.0 /月

(注1)親会社株主に帰属する中間純利益

(注2)SSMI：1月～6月の数値

事業環境

需要動向

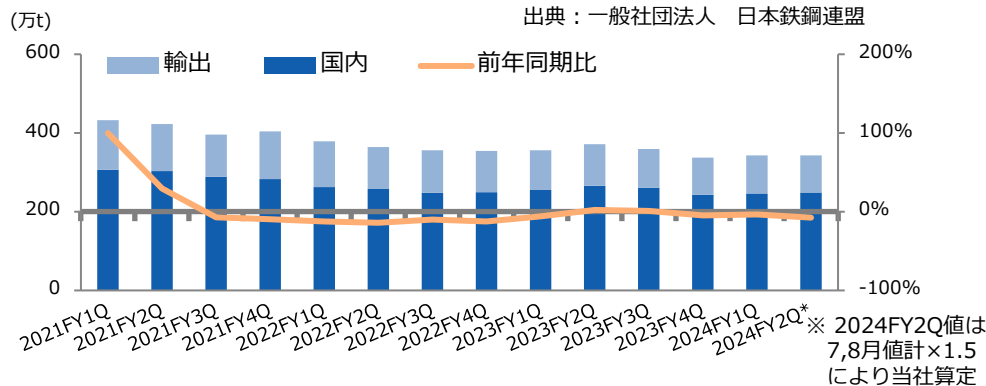
日本：自動車の生産・出荷停止影響は終息し、2024FY1Qを底に緩やかに回復。産業機械向けで若干の遅れが見られるものの、全体としては今後も緩やかな回復が続くと期待。

欧州：金利の高止まりや中国経済の回復の遅れなどにより、需要が停滞。今後想定される追加利下げによる2024FY下期からの需要回復を期待。

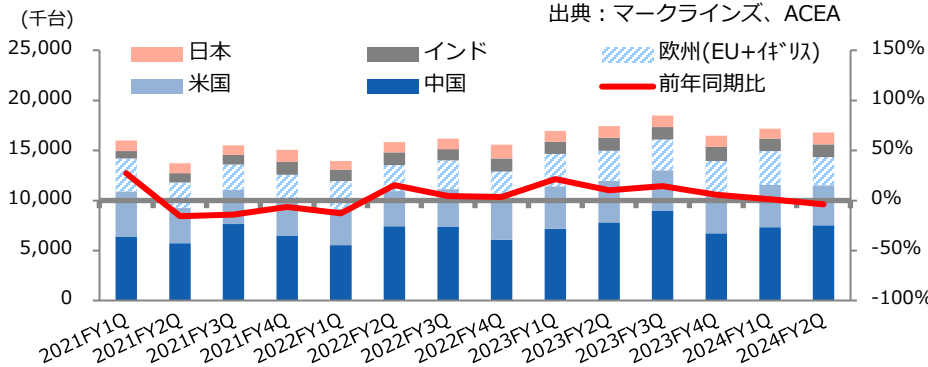
原燃料価格

概ね低下傾向。2024FYは前期比低下も、依然として高位で推移。物流費等のインフレも継続。

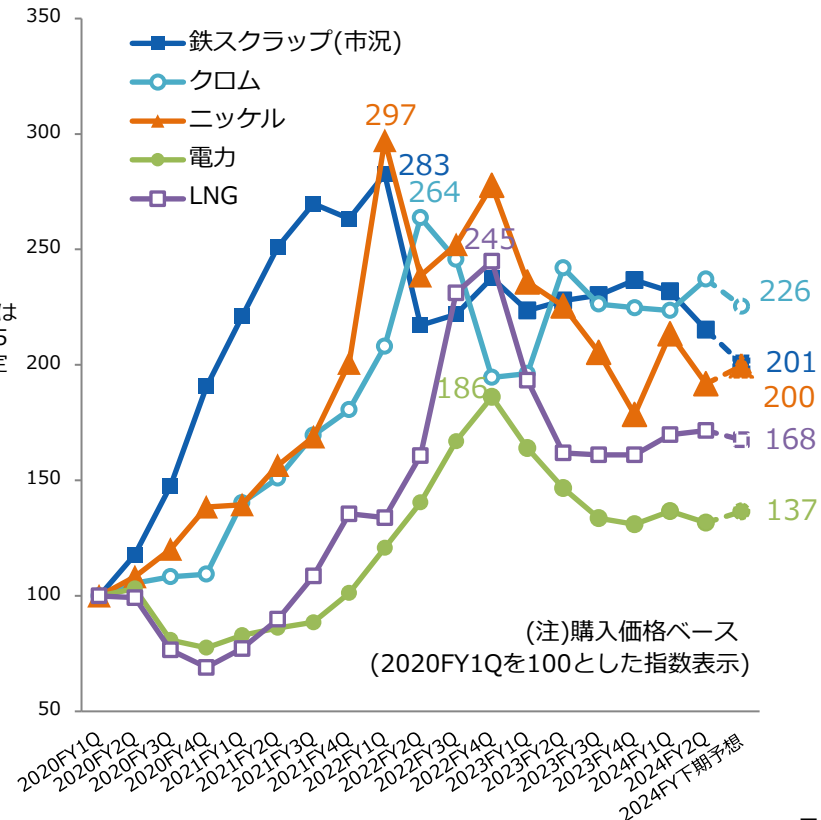
1. 特殊鋼受注数量



2. 主要国自動車販売台数



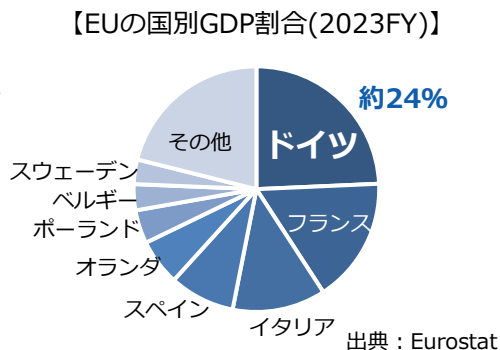
3. 原燃料価格推移



欧州事業環境

EU経済に占めるドイツのポジション

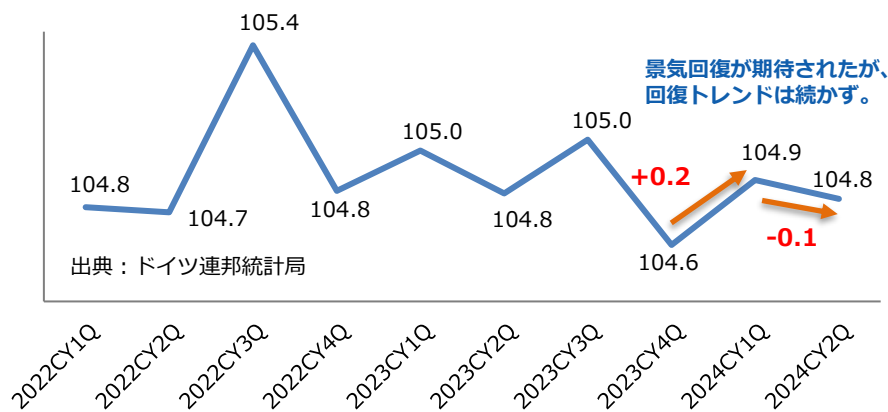
ドイツはEU最大の経済国で、同国のGDPはEU全体の20%以上を占める。



ドイツGDP推移

2024年4-6月期のドイツのGDPは前四半期比0.1減。同国の2024年1-3月期のGDPはプラス成長だったが、勢いは続かなかった。

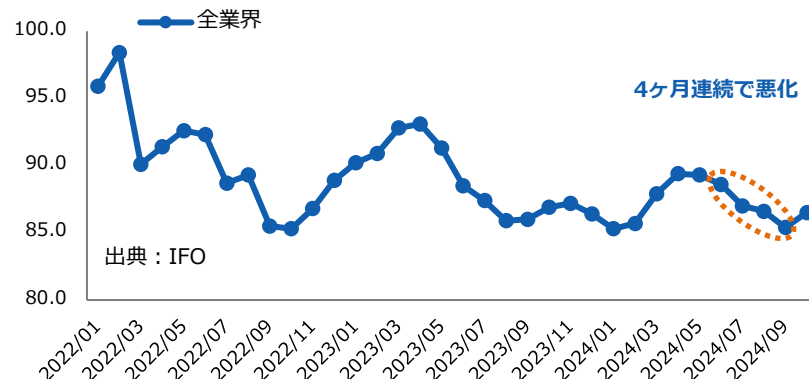
【ドイツGDP指数(2020CY=100)】



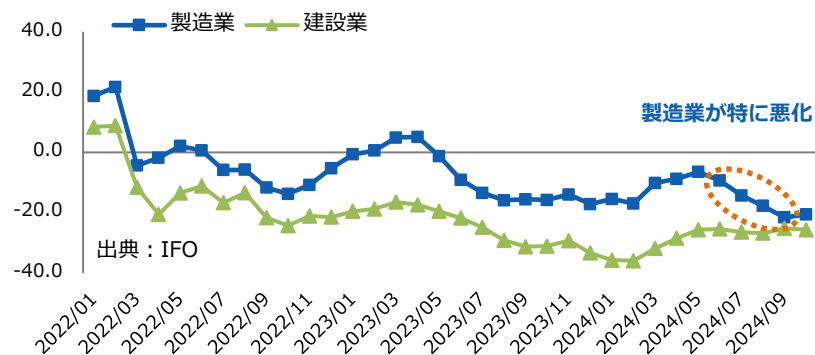
ドイツ企業景況感

ドイツ企業景況感指数は2024年6月以降、4ヶ月連続悪化。特に製造業で景況感が大幅に悪化。10月は若干改善したものの、依然厳しい状況が継続。

【ドイツ企業景況感指数(2015CY=100)】(全産業)



【ドイツ企業景況感(バランス)】(製造業・建設業)

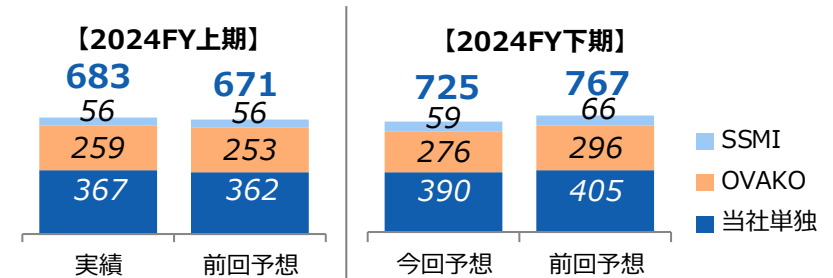


2024FY業績予想 (2024/10/31公表)

連結経常利益130億円(前期比+9億円)

緩やかな需要回復が期待されるものの、中国・欧州経済の悪化やインフレによる世界経済への影響が懸念される。引き続き販売価格改定を進めるとともにコストダウンにも取り組むことによりマージンを維持・拡大していく。

[参考] 売上数量 今回予想 vs 前回予想 (千t/半期)



(単位：億円、%)

	今回予想(2024/10/31公表)			前回予想(2024/7/30公表)			増減		
	(A)			(B)			(A)-(B)		
	上期(実)	下期(予)	通期	上期(予)	下期(予)	通期	上期	下期	通期
売上高	1,684	1,736	3,420	1,650	1,800	3,450	+34	-64	-30
営業利益	31	101	132	26	97	123	+5	+4	+9
経常利益	26	104	130	25	105	130	+1	-1	-
内、当社単独	53	62	115	47	58	105	+6	+4	+10
内、OVAKO	21	34	55	23	42	65	-2	-8	-10
内、SSMI	4	6	10	4	6	10	-0	+0	-
内、のれん償却費	▲17	▲17	▲34	▲17	▲17	▲34	-0	+0	-
税後利益 (注1)	15	80	95	12	83	95	+3	-3	-
ROE (%)			4.1			4.1			-
のれん償却費を除く税後利益	32	97	129	29	100	129	+3	-3	-
ROE (%)			5.6			5.6			-

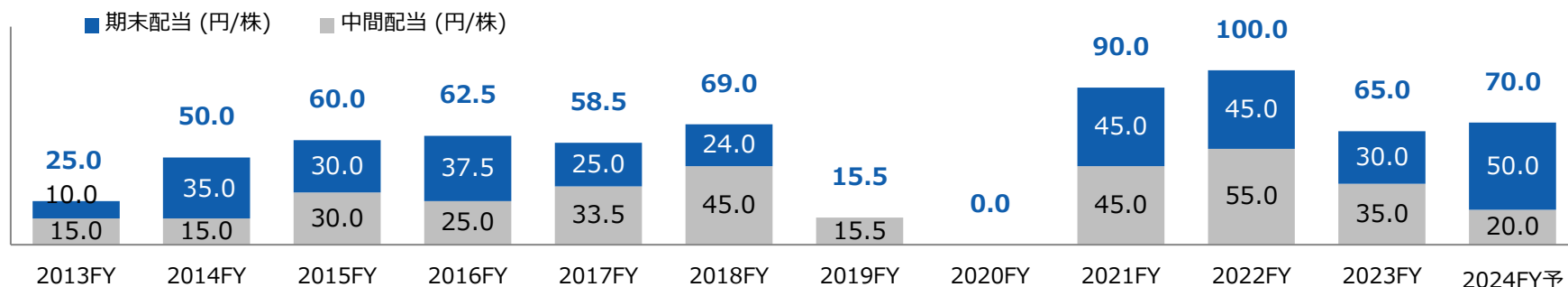
(注1) 親会社株主に帰属する当期純利益 (注2) SSMI：1月～12月の数値

【予想の主要前提(2024年10月以降)】

- ・鉄スクラップ(購入) 45.0 千円/t(姫路地区H2市況)
- ・原油(ドバイ) 80\$/BL ・為替 145円/\$、160円/€

2024FY中間配当および配当予想 (2024/10/31公表)

		今回予想(2024/10/31公表) (A)			前回予想(2024/7/30公表) (B)			増減 (A)-(B)		
		中間(実)	期末(予)	通期	中間(予)	期末(予)	通期	中間	期末	通期
		1株当たり純利益	A	28.2円		174.4円	22.0円		174.4円	+6.2円
のれん償却費を除く 1株当たり純利益	B	59.6円		236.8円	53.2円		236.8円	+6.4円		-円
1株当たり配当金	C	20.0円	50.0円	70.0円	20.0円	50.0円	70.0円	-円	-円	-円
配当性向	C/A	71.0%		40.1%	90.8%		40.1%	-19.8%		-%
	C/B	33.6%		29.6%	37.6%		29.6%	-4.0%		-%



<配当方針>

配当性向、1株当たり配当額水準および成長投資等の所要資金などを総合的に勘案
通常の連結配当性向**35%**程度、のれん償却除き**30%**程度を目安とする

2. ESGへの取り組み

ESGへの取り組み

2025年中期経営計画において下記を掲げESGへの取り組みを推進

2050年カーボンニュートラルの実現

- ・グループ全体で「エコプロセス」「グリーンエネルギー活用」「エコプロダクト」「エコソリューション」推進
- ・カーボンニュートラルで先行するOVAKOのリーダーシップを加速
- ・EV、風力発電、鉄道、水素社会の分野で高信頼性ニーズにこたえる技術の深化
- ・代表取締役社長を委員長とするカーボンニュートラル推進委員会でグループ横断的取り組みを強化

ガバナンス・ESGの取り組み強化と適切な情報開示

ダイバーシティや健康経営に加えグローバル人材育成やエンゲージメント向上に注力

- ・女性活躍推進
- ・働き方改革、ワーク・ライフ・バランスの推進
- ・健康経営の推進

役員報酬制度にESG指標を追加

- ・CDP気候変動スコア
- ・健康経営度評価
- ・安全指標
- ・女性管理職比率
- ・社外取締役による取締役会実効性評価

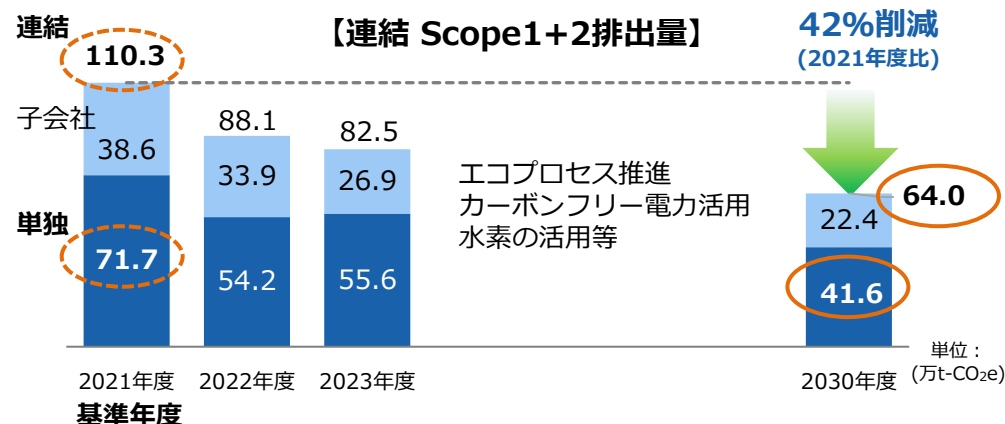
E : SBTコミット / Scope3削減目標策定

SBTへコミット

- ・2024年4月、パリ協定が定める水準と整合したGHG(温室効果ガス)※排出削減目標「Science Based Targets (SBT)」へコミット。2年以内にSBTの認定取得を目指すことを表明。

Scope1+2削減目標見直し

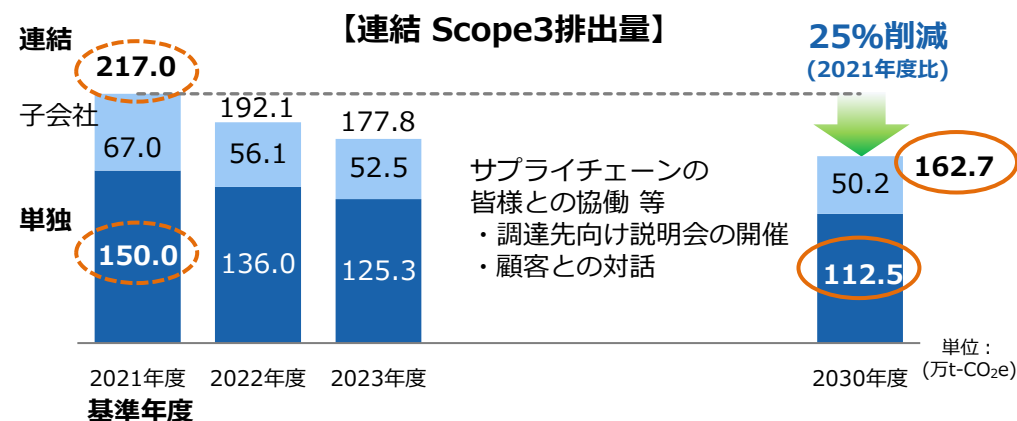
- ・2024年9月、連結でのScope1+2排出量を算定し、SBTのScope1+2認定基準に整合する「2030年度までに2021年度比でGHG(温室効果ガス) 42%削減」を目指す。



Scope3削減目標策定

鉄鋼業界において 世界に先駆けた取り組み

- ・2024年9月、SBT認定取得を目指し、連結でのScope3排出量削減目標を策定。
- ・SBTのScope3認定基準に整合する「2030年度までに2021年度比でGHG(温室効果ガス) 25%削減」を目指す。



※ GHG(温室効果ガス)

Greenhouse Gas の略称。地球温暖化の原因となる温室効果ガスである、二酸化炭素(CO₂)、メタン(CH₄)、一酸化二窒素(N₂O)、ハイドロフルオロカーボン類(HFCs)、パーフルオロカーボン類(PFCs)、六フッ化硫黄(SF₆)、三フッ化窒素(NF₃)の7種類を指す。

E : CNに向けた各社の取り組み(当社)

再生可能エネルギー活用

製品倉庫屋上に

太陽光発電設備を設置・稼働開始

- ・製品倉庫の屋上に太陽光発電設備を設置し、2024年7月から稼働開始。
- ・当社の事業所内で排出されるGHG(温室効果ガス)を約260t/年削減することが可能。



製品倉庫および本社事務所の年間電力消費量を上回る約60万kWh/年の電力を太陽光発電による再生可能エネルギーで賄うことが可能。



7月31日に、関係者列席のもと、太陽光発電設備 竣工式を挙げる。

水力発電所由来の再生電力を活用開始

- ・2024年4月から兵庫県内の水力発電所に由来する再生電力の購入を開始。
- ・当社の年間使用電力の約5%に相当する年間4,000万kWhを購入。
- ・当社の事業所内で排出されるGHG(温室効果ガス)を約17,000t/年削減することが可能。

電炉業界としての方向性を検討 「環境配慮型電気炉鋼材WG」に参画

- ・国内電炉メーカー28社とともに「環境配慮型電気炉鋼材WG」に参画。
- ・現在、本WGにおいて、環境配慮型電気炉鋼材ガイドラインを策定中。



CDP : 2023年度
気候変動スコア「A-」(Aマイナス) 取得

「A-」以上のスコアを取得した国内特殊鋼専門メーカーは当社のみ。

E : CNに向けた各社の取り組み(OVAKO・SSMI)

OVAKO : 脱炭素のリーディングカンパニー

- ・世界に先駆けた取り組みを推進しており、2022年より全ての鋼材に気候サーチャージ(プレミアム)を適用したグリーン鋼材の販売を開始。
- ・2023年9月より水素プラント設備稼働開始。脱炭素への取り組みをさらに推進中。



水素プラントの電解装置



2020年4月に世界で初めて水素を燃料に用いた鋼片加熱に成功。

グリーン鋼材のサプライヤーとして FNsteel社とパートナーシップ契約を締結

- ・2024年4月、OVAKOはFNsteel社と素材供給に関するパートナーシップを契約。
- ・脱炭素に向けた戦略の一環として低炭素鋼のサプライヤーとの協働を模索していたFNsteel社から、OVAKOの実績が評価され、パートナーシップ契約締結に至った。



SSMI : 太陽光発電の活用

- ・2018年にSBT認定取得。
- ・2024年9月より、太陽光発電電力を特殊鋼製造工程で使用開始。これによりSSMIは製造工程で排出するGHG(温室効果ガス)の約25%を削減見込み。



太陽光発電

SSMIの製造工程で
排出する
GHGの約25%
(最大約42,500t/年)
削減見込み

S：人的資本・サプライヤーとの連携強化の取り組み

グローバル人材の育成

- ・総合職新入社員の海外語学研修実施(期間1ヶ月間)。
- ・OVAKO・SSMIへの社員派遣および社員相互交流実施。

人権デューデリジェンス

- ・国際的な人権の尊重に向けた人権方針の策定、当社ウェブサイトにて開示。
- ・サプライチェーンの人権尊重に対する取り組みについてのアンケート実施。

女性役員比率向上

- ・2024年6月より、新たに監査等委員である取締役(非常勤)として宮口亜希氏が就任。執行役員・参与を含む当社の女性役員は4名に。

健康経営の推進

- ・従業員参加型ウォーキングイベントの定期開催、始業時のラジオ体操、勤務時間内禁煙の開始 など。

サプライヤーとの連携

スクラップ安定調達に向けサプライヤーへ出資

- ・鉄スクラップの安定調達に向けた調達ソースの確保・拡大の一環として、製鋼原料の加工・販売事業を行う(株)山陽の株式の一部を取得。これにより調達量の半数以上を資本関係先(日本製鉄グループを含む)から安定的に確保。

CNに向けたサプライヤーとの連携強化

- ・Scope3(カテゴリー1)に関わる主要サプライヤー向けCN説明会を開催。サプライヤーのGHG(温室効果ガス)排出量算定を援助。



総合職新入社員の海外語学研修



G：ガバナンス・適切な情報開示の取り組み

政策保有株式の相互売却

- ・当社株式の市場流通促進・資本コスト低減に向け、政策保有株式を相互売却。

	2023/3	→	2024/9
流通株式比率	37.5%	→	38.9%
対純資産比率	約5%	→	約2%

2023年度 株主・投資家との対話実績

活動内容	開催数	備考
アナリスト・機関投資家向け WEB決算説明会	4回	第2四半期および期末決算時は代表取締役社長が参加。説明用資料は日本語版、英語版を同時開示。説明会議事録を当社ウェブサイトに掲載。
株主向け工場見学会	1回	2023年3月末時点で1年以上かつ500株以上保有の株主を対象にご案内し、33名ご参加。
定時株主総会	1回	
アナリスト・機関投資家個別面談	103回	個別面談による対話を行った株主・投資家は延べ184名、うち海外の株主・投資家が延べ50名。
機関投資家向けESG説明会	1回	機関投資家向けにESGについての取組みを説明。代表取締役社長、取締役常務執行役員、常務執行役員が説明者として登壇。説明会の動画、資料および議事録は当社ウェブサイトに掲載。

対話の主なテーマ

- ・当社および連結子会社の業績
- ・原燃料価格・固定費コスト上昇への対応
- ・主要需要業界の動向
- ・カーボンニュートラルへの取り組み など

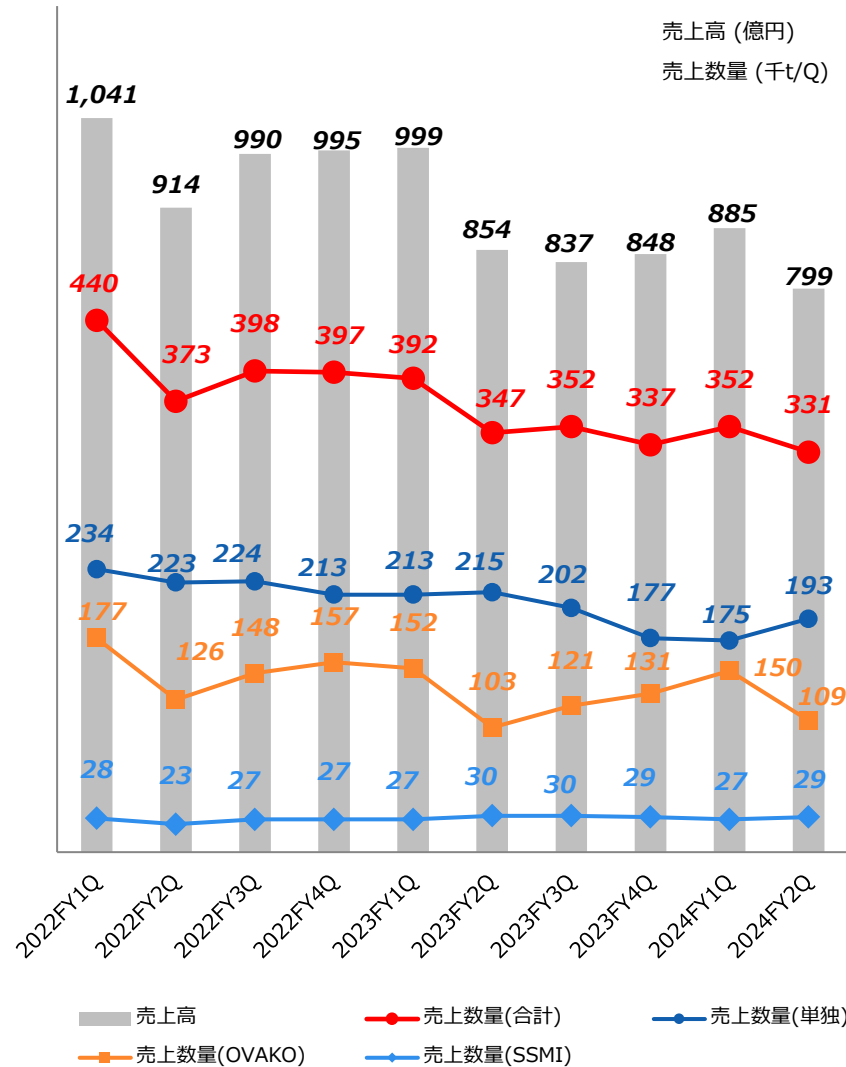
フィードバックの実施状況

- ・年3回、株主・投資家からの意見等を取締役会で報告。
- ・株主・アナリスト・機関投資家からのコメントをメールなどにて経営層へ報告。

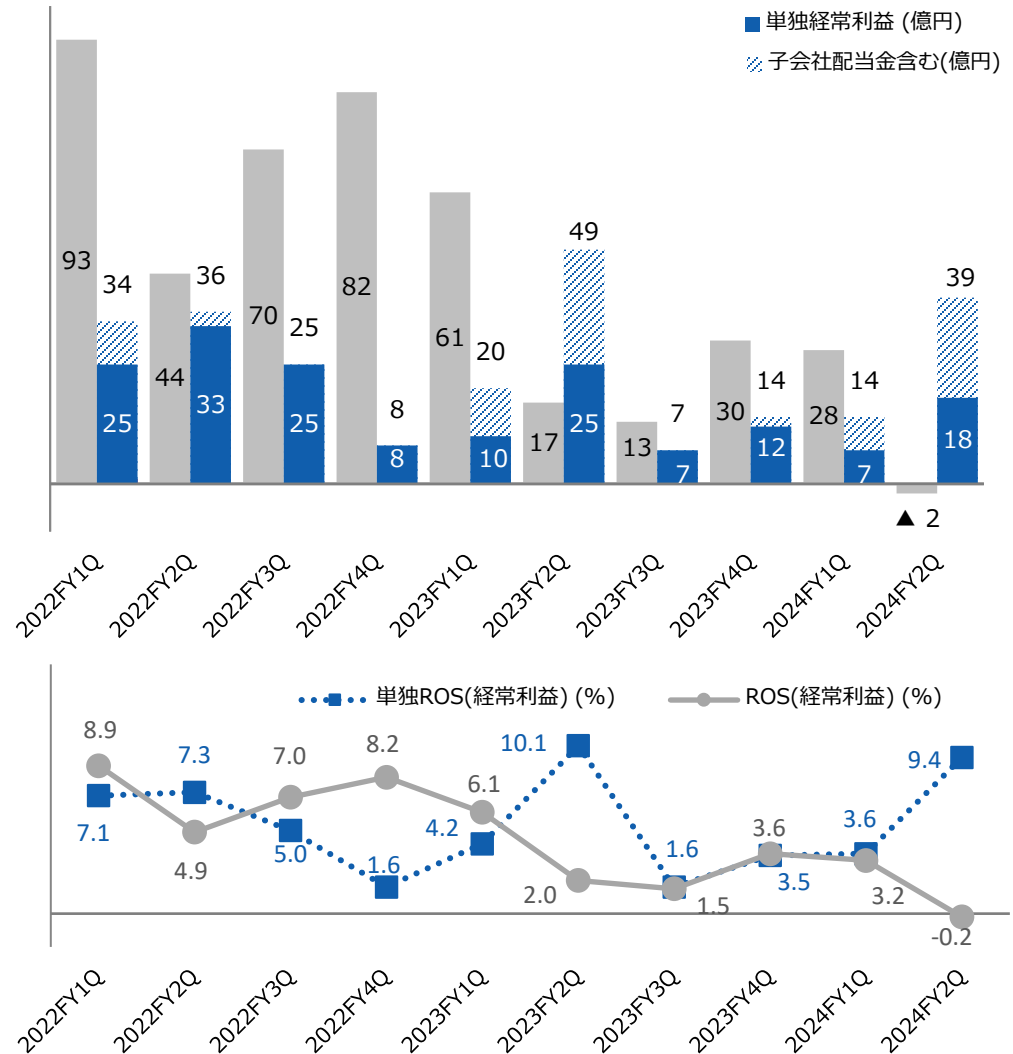
3. 決算および業績予想の詳細

業績推移(四半期)

売上高 (億円)
売上数量 (千t/Q)



■ 経常利益 (億円)
■ 単独経常利益 (億円)
▨ 子会社配当金含む(億円)



セグメント別損益

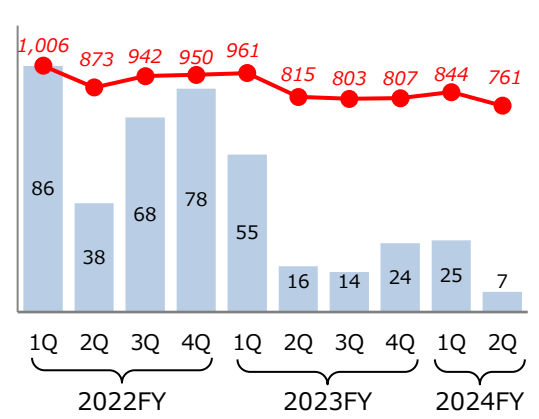
(単位：億円、%)

	2024FY上期 (A)			2023FY上期 (B)			対前年同期 (A)-(B)		
	売上高	営業利益	売上高 営業利益率	売上高	営業利益	売上高 営業利益率	売上高	営業利益	売上高 営業利益率
鋼材	1,605	33	2.0	1,776	71	4.0	-171	-38	-2.0
粉末	28	6	20.5	27	5	17.2	+1	+1	+3.3
素形材	89	▲7	-8.4	90	▲3	-3.1	-1	-5	-5.3
小計	1,722	31	1.8	1,894	73	3.8	-172	-42	-2.0
その他	7	0	2.1	6	0	2.5	+1	-0	-0.4
調整額	▲45	0	-	▲47	0	-	+2	-0	-
連結計	1,684	31	1.8	1,853	73	4.0	-168	-42	-2.2

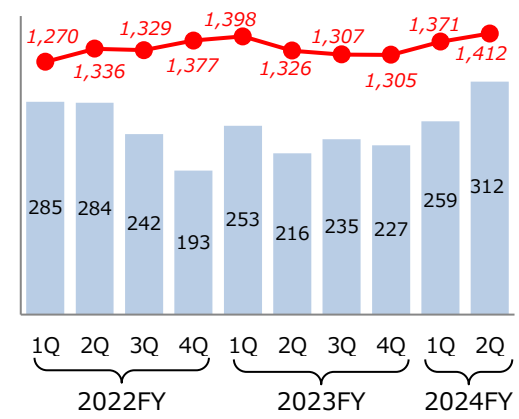
事業別損益推移

■ 営業利益 ● 売上高

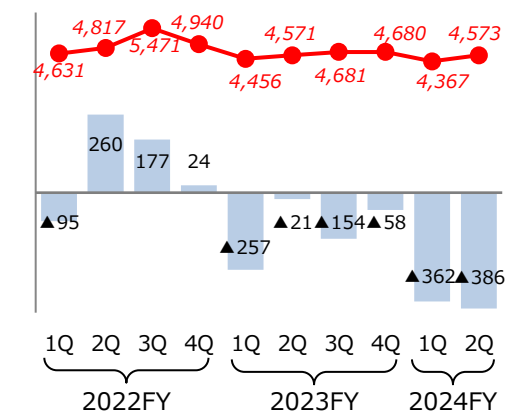
鋼材セグメント (単位：億円)



粉末セグメント (単位：百万円)



素形材セグメント (単位：百万円)



貸借対照表 (連結)

(単位：億円、円/株)

	2024/9 (A)	2024/3 (B)	増減 (A) - (B)	主な増減理由
流動資産	2,197	2,284	-88	資産
現預金	207	266	-59	[内、為替影響 -0億円]
関係会社預け金	79	48	+31	1. 売上債権 : 売上減に伴う減少
売上債権	692	729	-37	2. 棚卸資産 : 原燃料価格の下落等による減少
棚卸資産	1,165	1,192	-26	3. のれん : 償却-17億円、為替影響-7億円
固定資産	1,678	1,703	-25	
有形固定資産	1,238	1,235	+4	
のれん	306	330	-24	
投資その他	95	98	-3	
資産合計	3,874	3,987	-113	
負債	1,602	1,701	-99	負債・純資産
仕入債務	346	394	-47	[内、為替影響 -0億円]
有利子負債	870	829	+41	1. 有利子負債 : 運転資金調達に伴う増加
純資産	2,272	2,286	-14	2. 純資産 : 資本剰余金-19億円 利益剰余金-1億円 (税後利益+15億円、配当-16億円)
自己資本	2,258	2,267	-9	
非支配株主持分	14	19	-5	
負債・純資産合計	3,874	3,987	-113	
自己資本比率 (%)	58.3	56.9	+1.4	【為替レート】
1株当たり純資産	4,144.07	4,160.27	-16.20	2024/9末 : 159.5円/€
D/Eレシオ(ネット) (倍)	0.26	0.23	+0.03	2024/3末 : 163.2円/€

(参考)主要各社の総資産額(2024/9末：連結消去前) 当社 2,681億円 OVAKO 1,268億円 SSMI 171億円

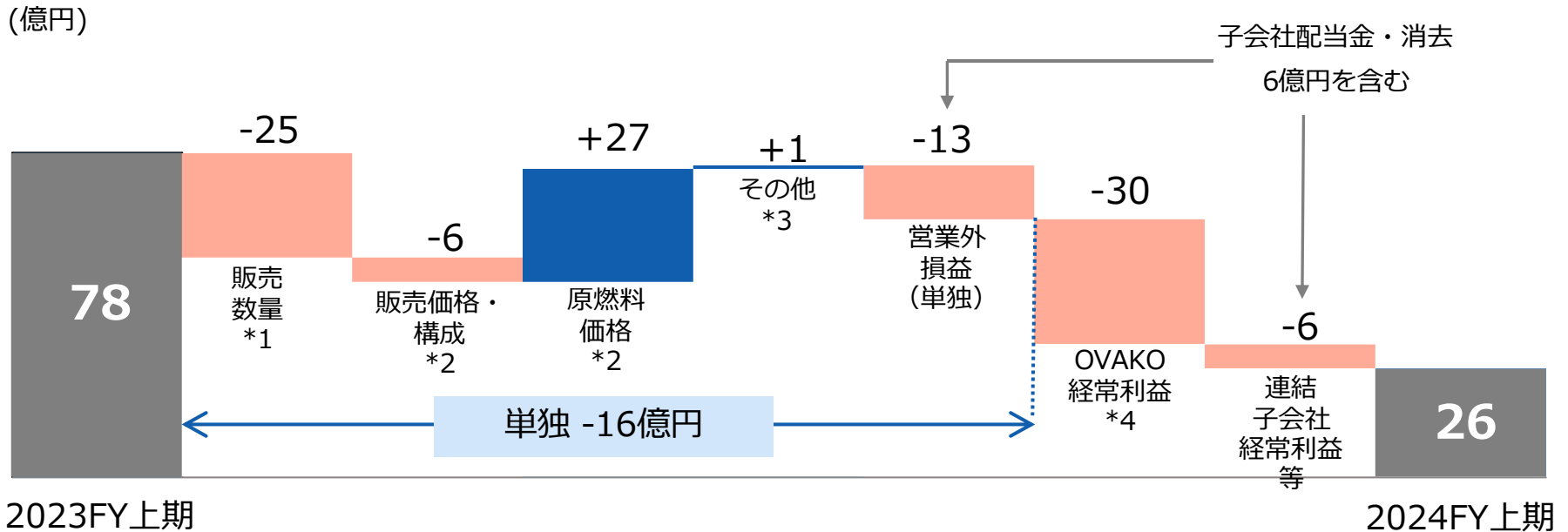
キャッシュ・フロー計算書 (連結)

(単位：億円)

	2022FY上期	2022FY下期	2023FY上期	2023FY下期	2024FY上期
営業活動によるC/F (A)	△71	192	147	260	51
税金等調整前当期純利益	EBITDA (簡便計算)	221	159	141	115
減価償却費・のれん償却額					
法人税等の支払または還付	△50	△24	△50	△25	△51
運転資金等	△242	△10	38	144	△14
投資活動によるC/F (B)	△66	△61	△108	△51	△78
設備支出	△63	△68	△104	△64	△78
株式売却収入	—	0	1	16	3
その他	△4	7	△5	△3	△2
フリー・キャッシュ・フロー (A+B)	△137	131	38	209	△28
財務活動によるC/F (C)	115	△30	△55	△220	△1
借入金・社債・CP・リース債務の増減	140	4	△4	△201	40
配当金の支払	△25	△30	△25	△19	△16
その他	△0	△4	△26	△0	△25
換算差額 (D)	12	1	18	6	0
キャッシュ増減 (A+B+C+D)	△11	102	2	△5	△28

(注)キャッシュには関係会社預け金含む

経常利益の変化要因 (2023FY上期→2024FY上期)



山陽	69
OVAKO	51
その他	-42

連結 -52億円

山陽	53
OVAKO	21
その他	-48

*1 販売数量

- ・ 14%減 (-60千t : 427千t→367千t)

*2 サーチャージタイムラグ

- ・ 鉄スクラップ+3 (×2→○1)
- ・ エネルギー-11 (○10→×1)

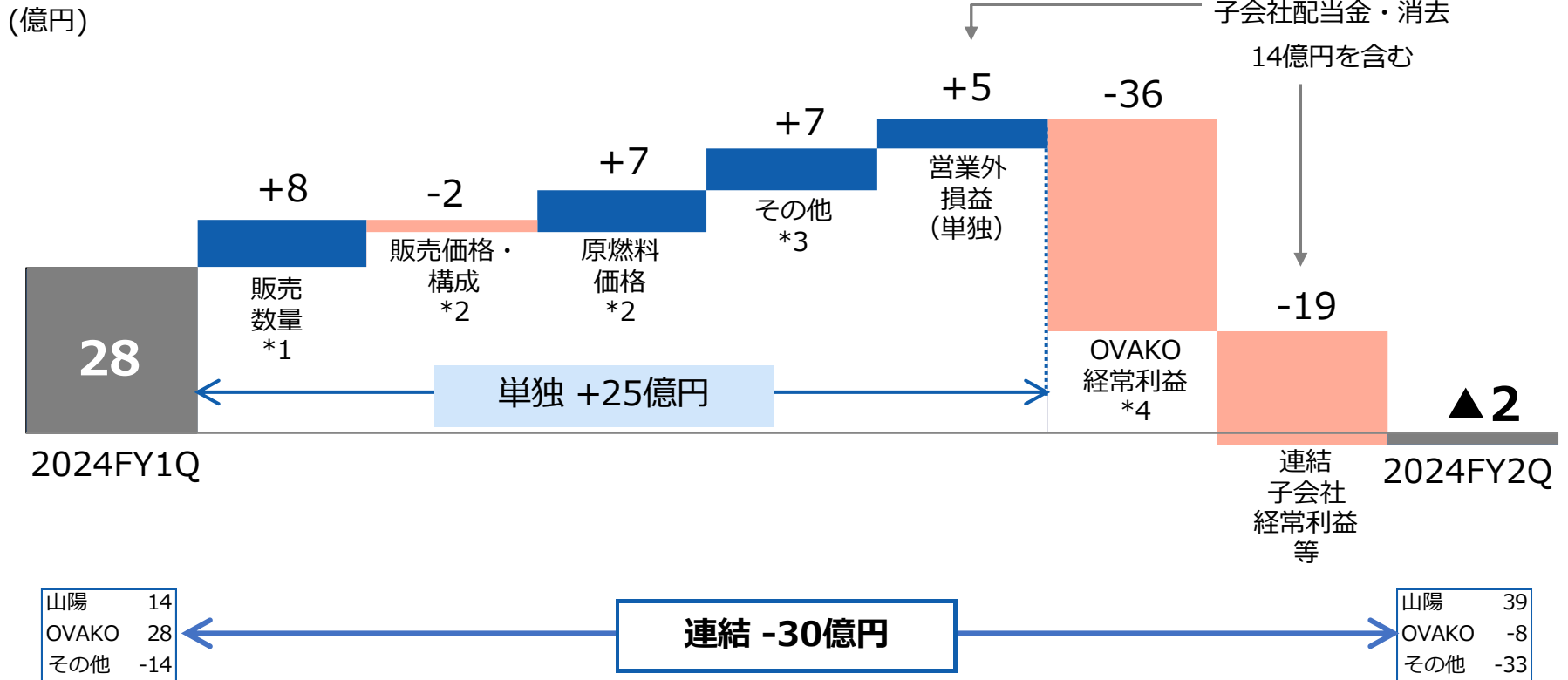
*3 その他内訳

- ・ 変動費コストダウン+1、固定費+4、諸資材・外注・物流費等-3、修繕費-1

*4 OVAKO経常利益

- ・ 販売数量 +5
1%増 (+4千t : 256千t→259千t)
- ・ 一過性要因 -13 (+9→-4)
うち、為替影響 -7 (+3→ -4)
エネルギー補助金 -6 (+6→ 0)
- ・ 販売・原燃料価格、構成 -36
- ・ その他(固定費等) +14

経常利益の変化要因 (2024FY1Q→2024FY2Q)



*1 販売数量

- ・ 10%増 (+18千t : 175千t→193千t)

*2 サーチャージタイムラグ

- ・ 鉄スクラップ+1 (〇〇→〇1)
- ・ エネルギー+0 (×1→×0)

*3 その他内訳

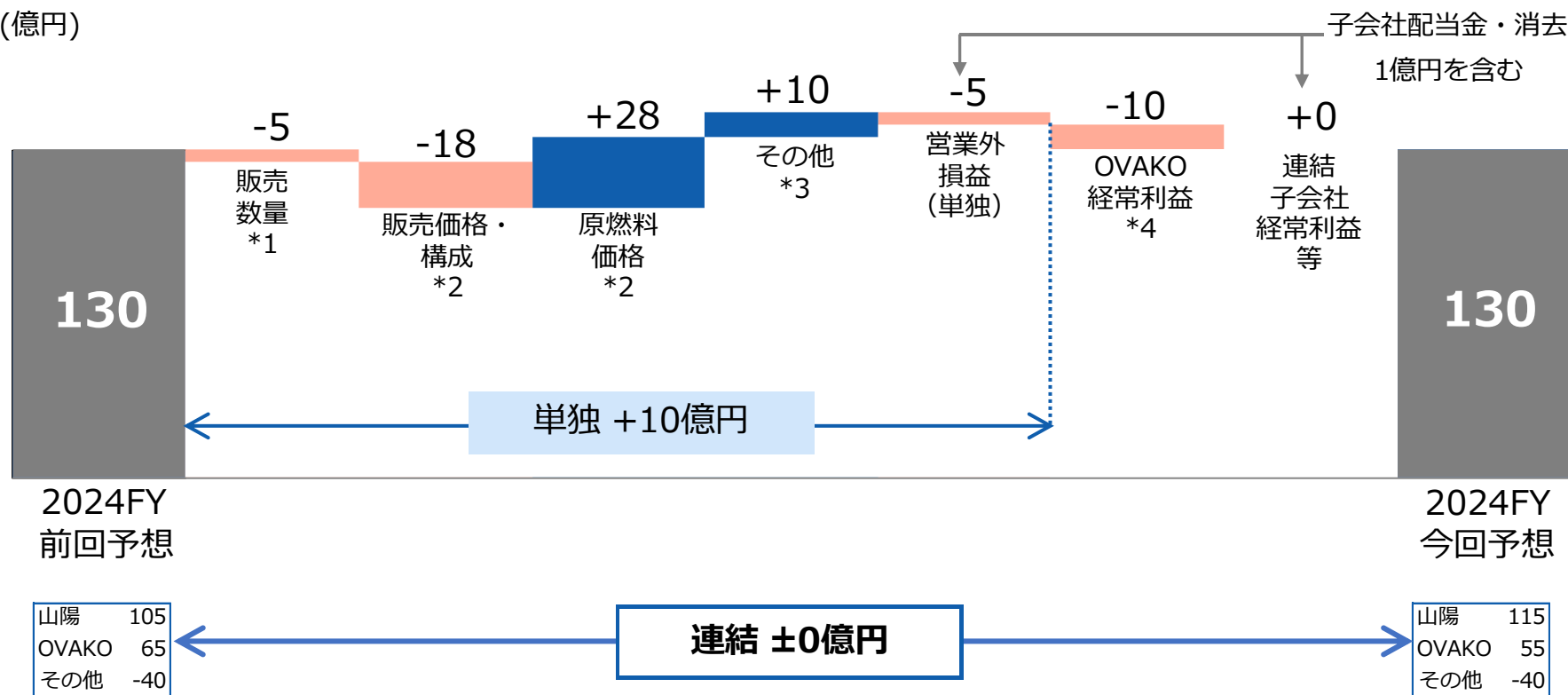
- ・ 変動費コストダウン+1、諸資材・外注・物流費等+3、修繕費+1、固定費+2

*4 OVAKO経常利益

- ・ 販売数量(季節差等) -49
27%減 (-41千t : 150千t→109千t)
- ・ 一過性要因 +1 (-2→-1)
うち、為替影響 +1 (-2→-1)
- ・ 販売・原燃料価格、構成 -9
- ・ その他(固定費等) +21

経常利益の変化要因 (2024FY前回予想→2024FY今回予想)

(億円)



*1 販売数量

- ・ 1%減 (-10kt : 767kt→757kt)

*2 サーチャージタイムラグ

- ・ 鉄スクラップ+10 (×0→○10)
- ・ エネルギー+1 (×2→×1)

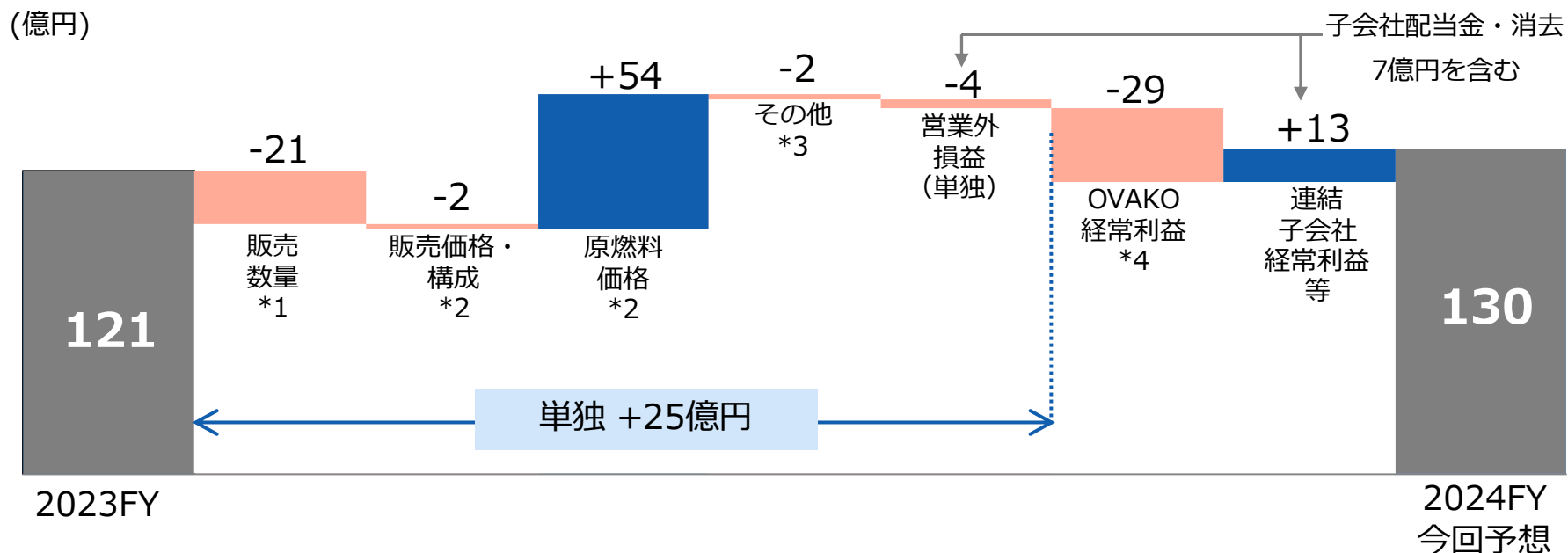
*3 その他内訳

- ・ 諸資材・外注・物流費等+2、修繕費+5、固定費+4、変動費コストダウン-1

*4 OVAKO経常利益

- ・ 販売数量 -16
3%減 (-14kt : 549kt→535kt)
- ・ 一過性要因 -2 (-2→-4)
うち、為替影響 -2 (-2→-4)
- ・ 販売・原燃料価格、構成 -8
- ・ その他(固定費等) +16

経常利益の変化要因 (2023FY→2024FY今回予想)



山陽	90
OVAKO	84
その他	-53

連結 +9億円

山陽	115
OVAKO	55
その他	-40

*1 販売数量

- ・ 6%減 (-49kt : 806kt→757kt)

*2 サーチャージタイムラグ

- ・ 鉄スクラップ+13 (×3→○10)
- ・ エネルギー-18 (○17→×1)

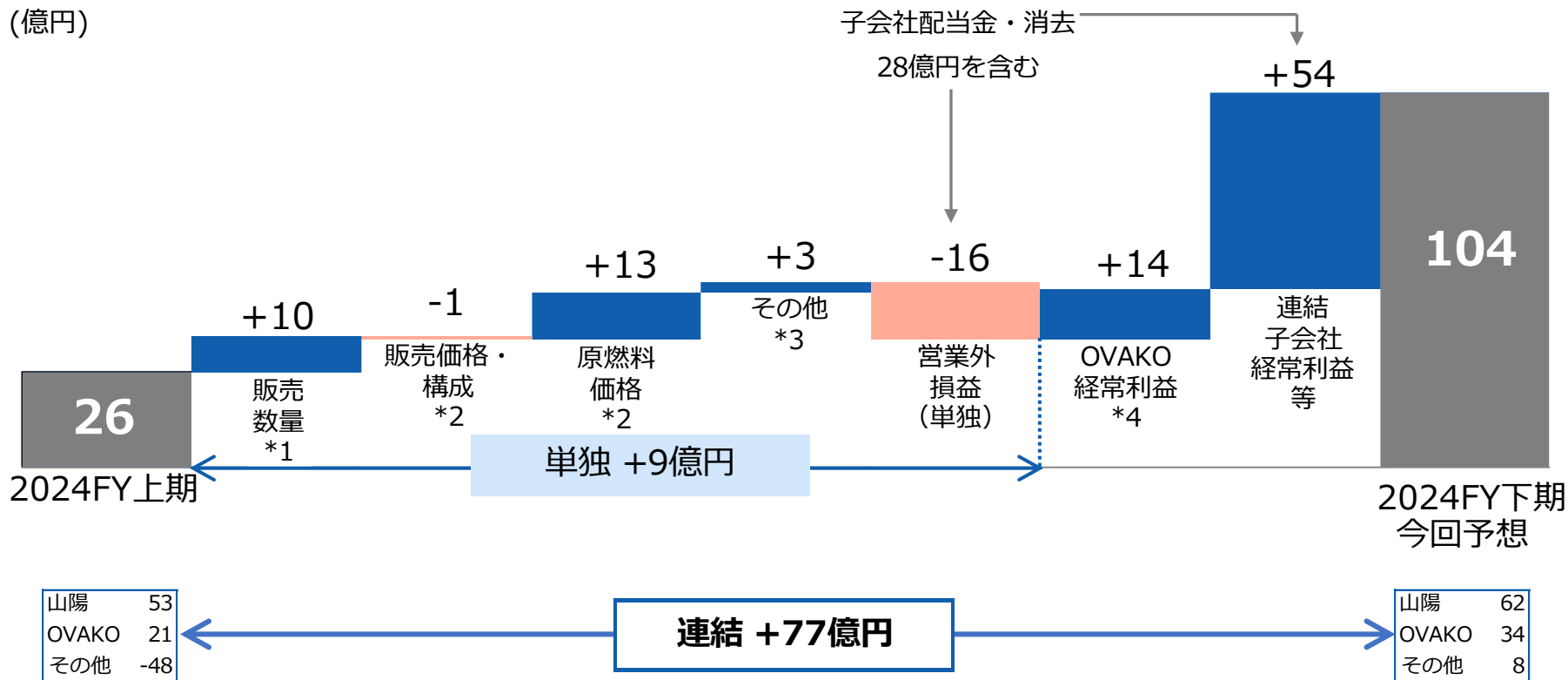
*3 その他内訳

- ・ 変動費コストダウン+9、修繕費+6、諸資材・外注・物流費等-11、固定費-6

*4 OVAKO経常利益

- ・ 販売数量 +33
5%増 (+28kt : 508kt→535kt)
- ・ 一過性要因 -17 (+13→-4)
うち、為替影響 -8 (+4→ -4)
エネルギー補助金 -6 (+6→ 0)
その他 -3 (+3→ 0)
- ・ 販売・原燃料価格、構成 -55
- ・ その他(固定費等) +10

経常利益の変化要因 (2024FY上期→2024FY下期今回予想)



*1 販売数量

- ・ 6%増 (+22千t : 367千t→390千t)

*2 サーチャージタイムラグ

- ・ 鉄スクラップ+7 (○1→○9)
- ・ エネルギー+0 (×1→×0)

*3 その他内訳

- ・ 変動費コストダウン+4、諸資材・外注・物流費等+1、修繕費+5、固定費-7

*4 OVAKO経常利益

- ・ 販売数量(季節差等) +19
6%増 (+17千t : 259千t→276千t)
- ・ 一過性要因 +4 (-4→0)
うち、為替影響 +4 (-4→ 0)
- ・ 販売・原燃料価格、構成 +7
(変動費コストダウン含む)
- ・ その他(固定費等) -16

OVAKOの状況

2024FY見通し

- ・ **2024FY上期**：利下げ開始後も欧州の景気回復が進んでいないことや、安価な輸入材の流入、欧州外への生産拠点移転の影響により、需要低迷が継続。同業他社も苦戦を強いられる中、OVAKOは拡販による数量確保やコスト抑制などに積極的に取り組み、**経常利益21億円**を確保。前年同期比では一過性影響縮小や拡販による構成悪化により、-30億円。
- ・ **2024FY下期**：9月以降の各種経済指標公表を受け、特にドイツ経済の更なる悪化懸念が広がった。景気回復の遅れにより、在庫調整も発生。大幅な需要環境改善が見込めない中、拡販を含む数量確保、固定費コントロールに引き続き取り組み、**通期経常利益55億円(2023FY比-29億円)**を計画。カーボンニュートラルの強みを活かした拡販に引き続き取り組む。

【環境想定】

- ・ 高金利環境による景気減速
- ・ 欧州エネルギー危機等によるサプライチェーンの変化(安価な輸入材の流入など)

前回予想



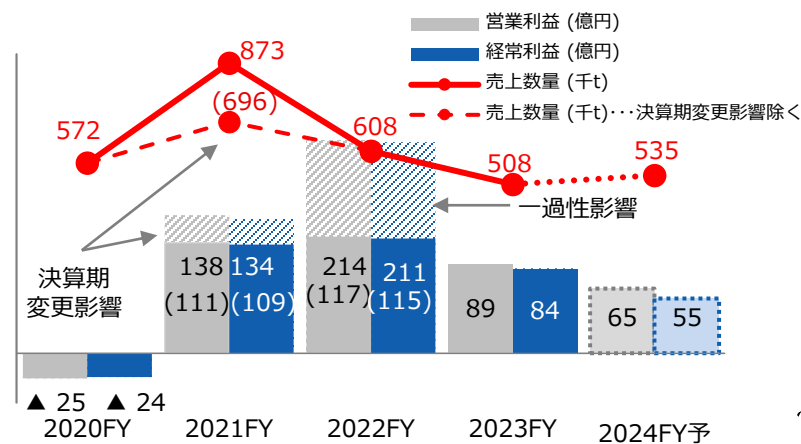
- ・ 利下げ開始を受け下期では景気が緩やかながら回復に向かう

今回予想

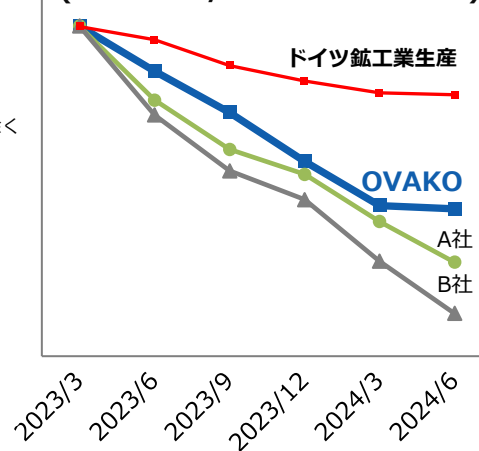


- ・ **ドイツ経済の想定外の悪化を受け欧州全体の回復に遅れ**
- ・ **在庫調整が発生**

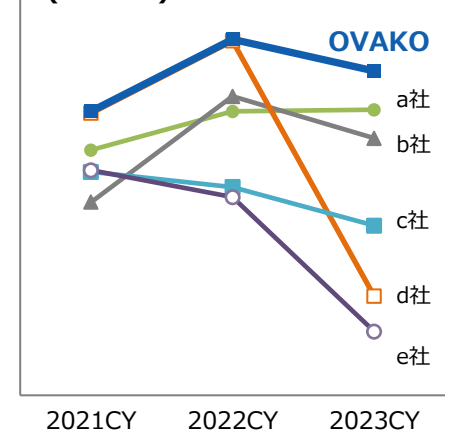
売上数量、営業利益、経常利益推移



欧州特殊鋼メーカー販売数量とドイツ鋳工業生産 (指数:2023/3=100、3ヶ月平均)



欧州同業他社比較 (EBIT%)

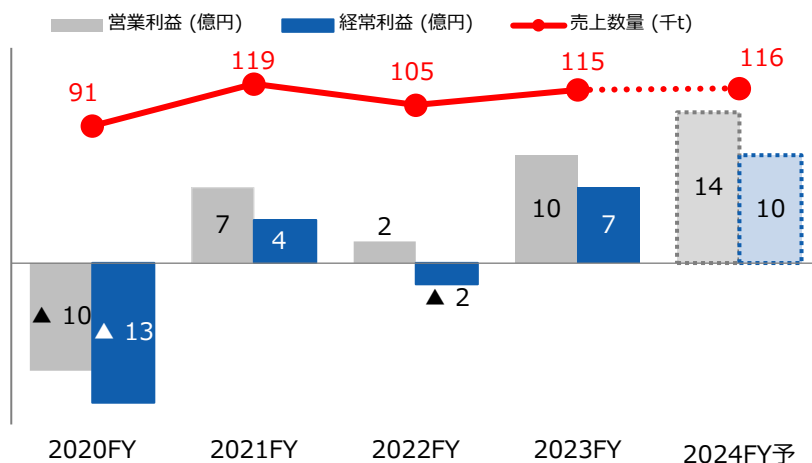


SSMIの状況

2024FY見通し

- ・ **2024FY上期(1-6月期)**は、販価・販売構成の改善や、安価鉄源の活用および生産計画の最適化などによるコスト改善施策を実行し、**経常利益4億円(前年同期比+1億円)**となった。
- ・ **2024FY**は、拡販やコスト改善施策を確実に実行しつつ、販売価格や販売構成の維持・改善を通じてマージンを拡大し、**経常利益10億円(2023FY比+3億円)**を計画。

売上数量、営業利益、経常利益推移



収益力強化に向けた取り組み

1. 営業基盤・営業体制の強化
 高純度技術を活かした営業戦略の策定
 拡販、販売構成の高度化、販売価格の改善
2. 変動費の削減
 エネルギー原単位改善や安価な鉄源や電力の活用による
 操業コスト・調達コストの削減
 (2024年9月より太陽光発電による再エネ由来電力の使用を開始)
3. 固定費の抑制
 増資に伴う借入金の返済等による、金利コストの削減

- ・ **生産、販売、技術、人材、財務面等を一層強化**することにより、**中長期的な経済成長が見込まれるインドにおけるプレゼンスをより確固たるものとし、当社グループのグローバル展開の強化と更なる成長**を図る。

4. トピックス

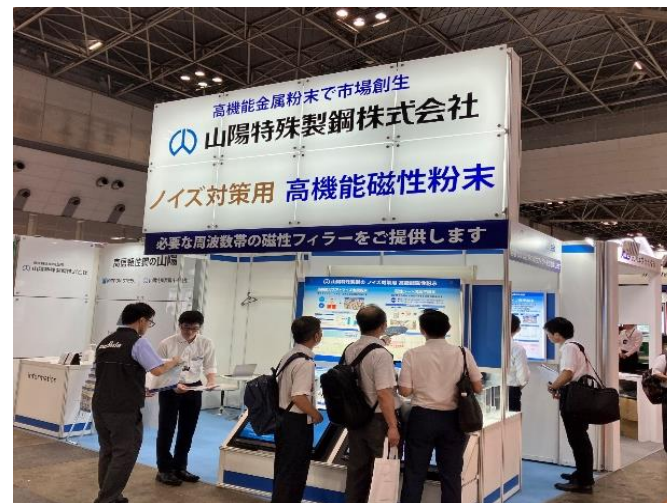
トピックス

1. 「TECHNO-FRONTIER2024 EMC・ノイズ対策技術展」へ出展（2024年7月24日～26日）

- ・メカトロニクスやエレクトロニクス関連の専門領域の最新技術と製品が展示される、アジア最大級の専門展示会に出展。
- ・当社はノイズ対策用高性能磁性粉末等をPR。当社ブースには204名が来場。

【当社出展製品】

- ・高透磁率タイプ扁平粉末
- ・RFID用扁平粉末
- ・高周波タイプ扁平粉末
- ・球状磁性粉末



2. サプライヤー表彰（2024年8月21日）

- ・当社では、取引先様とのパートナーシップ強化の一環として、サプライヤー表彰制度を設けている。
- ・原材料・諸資材・保全・外注の各部門について、当社との年度ごとの取引における品質・コスト競争力・納期管理・取引先の経営状況・環境対応・サービスなどの要素を総合的に評価し、優れた功績を挙げられたサプライヤー様を選考し表彰。



2024年は優れた功績を挙げられたサプライヤー様5社を表彰

トピックス

3. 次世代育成に向けた取り組み

高校生

近隣高校へ実習用鋼材を提供
(2024年7月29日)

- ・近隣高校3校へ旋盤実習用の鋼材を提供。
- ・提供先の高校からは、実習に活用することで生徒の技能向上に役立っているとの評価をいただいている。



小・中学生

小中学生向けキャリア教育
副教材に掲載

姫路市の小・中学生を対象とした、文部科学省が推進するキャリア教育の副教材で当社を紹介。



大学院生

産学連携講義を開催 – 九州大学鉄鋼リサーチセンターとの技術交流会 –
(2024年9月24日～27日)

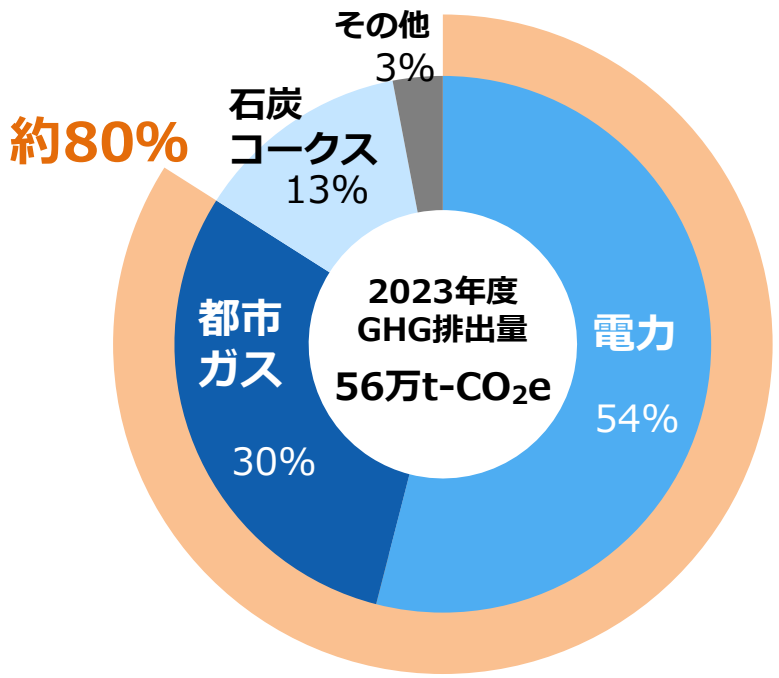
- ・大学院生を対象とした産学連携講義を当社において開催。
- ・当社従業員による特殊鋼関連の講義や、工場・研究設備見学、実習および報告会を実施。
- ・4日間のプログラムに教員4名と大学院生6名が参加され、特殊鋼についての理解を深めていただいた。



5. 2050年カーボンニュートラル(CN) 実現に向けた取り組み

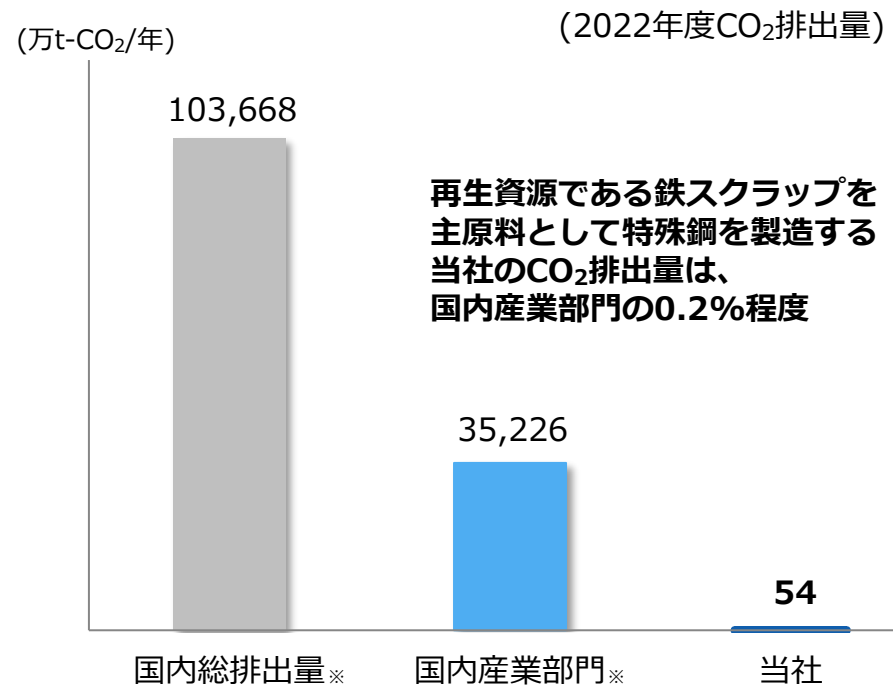
当社の状況とカーボンニュートラルに向けた考え方

■ 当社のGHG排出量内訳 (当社単独Scope1+2)



当社のGHG排出量の80%以上が電力と都市ガス

■ CO₂排出量における当社の位置づけ



※国立環境研究所温室効果ガスインベントリオフィス 日本の温室効果ガス排出量データ (2022年度実績確定値)

GXリーグへの参画

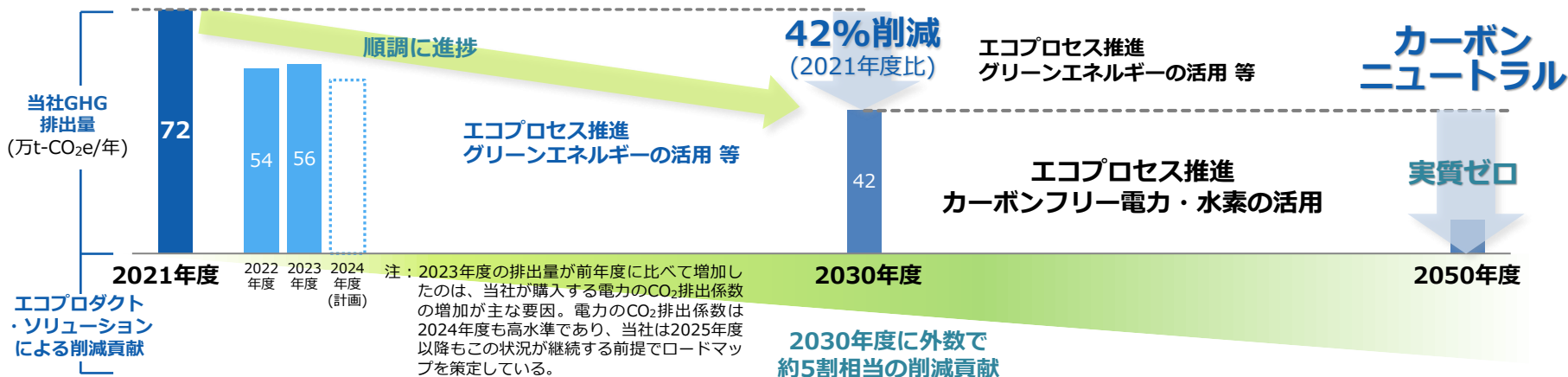
当社は、2050年カーボンニュートラル実現に向けて、企業の成長、生活者の幸福そして地球環境への貢献が同時に実現される経済社会システム全体の変革を目指す「GXリーグ基本構想」に賛同、2023年5月にGXリーグに参画した。
自主的な排出量取引、市場創造のためのルール形成、ビジネス機会の創発、GXスタジオでの交流といったGXリーグにおける活動に積極的に参加していく。



2050年に向けた当社のロードマップ

製造工程における省エネとグリーンエネルギーの活用、およびエコプロダクト・エコソリューションによる貢献で、自社の製造工程だけでなく、社会のあらゆる段階でのGHG(温室効果ガス)排出削減を目指す

【当社単独Scope1 + 2排出量】



当社GHG(温室効果ガス)排出量削減



リジエバーナーを
採用した省エネ加熱炉

エコプロセス

製造現場を中心とした全社の省エネ対策やエネルギー効率を高める製造技術開発を推進
※2023年度からインターナルカーボンプライシングを導入



グリーンエネルギー活用

カーボンフリー電力や脱化石燃料、自然エネルギーの活用
※2022年度から再エネ由来電力の一部活用開始
2024年度から水力・太陽光発電活用開始

エコプロダクト・エコソリューションによる削減貢献



長寿命風力発電用
軸受鋼の開発

エコプロダクト

製品を使用する段階でGHG(温室効果ガス)排出削減に貢献する商品や、需要家のエコプロセスに貢献する商品の開発・供給を推進



海外グループ会社への
技術展開

エコソリューション

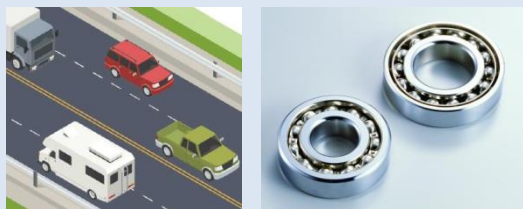
エネルギー原単位削減に寄与する省エネや生産性向上技術をOVAKO、SSMI等の海外グループ会社に展開

エコプロダクトによるGHG排出量削減への貢献

お客様での部品製造や最終製品としての使用段階におけるGHG(温室効果ガス)排出削減に貢献するエコプロダクトの開発に注力

- ・当社材料技術を活用したエコプロダクトによる社会のあらゆる段階でのGHG(温室効果ガス)排出削減貢献を目指す。
- ・今後も長寿命化等、材料特性をさらに強化したエコプロダクトの実装と一層の普及を図ることで、カーボンニュートラル社会の早期実現に貢献していく。

長寿命軸受鋼



耐久性・信頼性向上による
部品の小型・軽量化

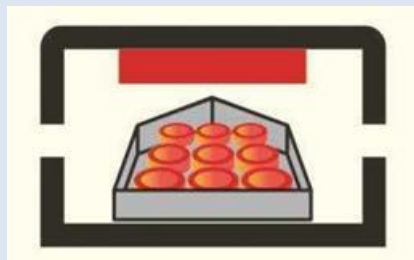


長寿命化による
故障率低減・メンテフリー化
(CO₂削減効果は推計で1.3万トン/年※)

工程省略鋼

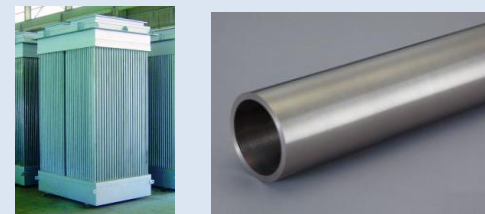


(高強度肌焼鋼：ECOMAX®シリーズ)
熱処理の省略・簡略化



(高硬度高靱性鋼：TOUGHFIT®)
新成分+新熱処理技術による
部品硬化熱処理負荷の軽減

耐熱ステンレス鋼管



高強度化による
熱回収効率向上



高耐食性化による
ごみ発電高効率化

※第18回 日本LCA学会 研究発表会(2023年3月10日)にて発表

欧州子会社OVAKOの取り組み

OVAKOロードマップ

2020年4月 ● **世界初 水素を燃料に用いた鋼片加熱に成功**

2022年1月 ● **カーボンニュートラルに移行**

自社の製造プロセスにおけるGHG(温室効果ガス)排出を実質ゼロに

- ・カーボンオフセットプログラムを活用し、残るGHG(温室効果ガス)排出量を相殺
- ・気候サーチャージを適用

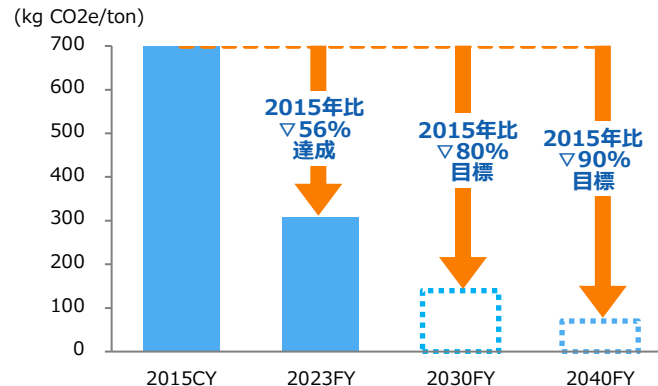
2023年9月 ● **カーボンフリー水素プラント稼働開始**

欧州最大級の設備
Hofors工場加熱工程で排出するGHG(温室効果ガス)を約50%(約2万t/年)削減可能

顧客との協同取り組み事例

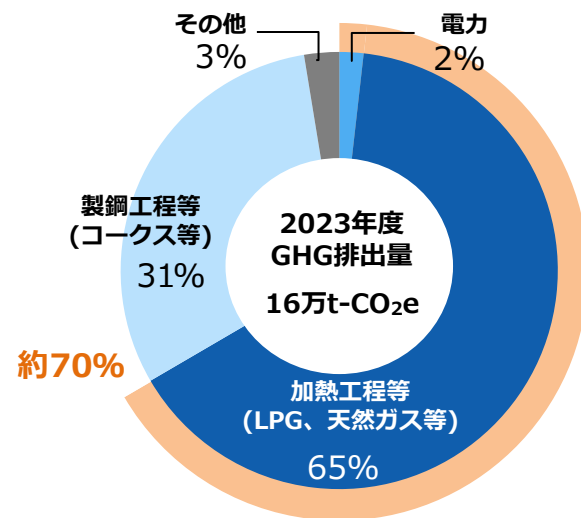
- ・SKFと協同し、GHG(温室効果ガス)排出量90%減の軸受生産を達成
- ・Volvoの温室効果ガス ネットゼロ自動車製造プロジェクトへ参画
- ・FNsteelとパートナーシップ契約を締結

OVAKOのGHG排出量(Scope1+2)



OVAKO SUSTAINABILITY REPORT 2023をもとに作成

OVAKOのGHG排出量内訳



OVAKOのカーボンフリー水素プラントについて

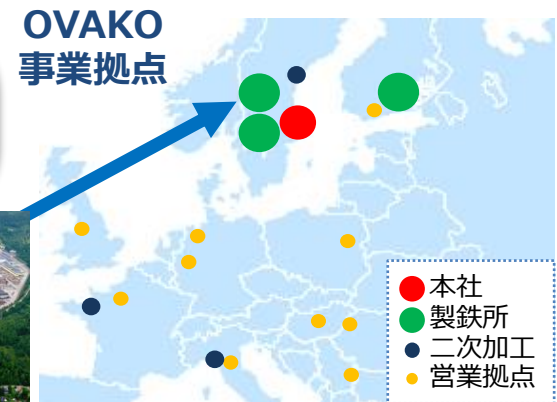
- ・スウェーデン政府の財政支援と現地有力企業(Volvo Group等)の参加を受けて、スウェーデンHofors工場内に建設。
- ・投資総額180百万SEK(スウェーデンクローネ) ※うち約4割をスウェーデン政府が財政支援
- ・脱化石電力を使用した水の電気分解により、毎時約4千 m^3 (約3千t/年)のカーボンフリー水素を生成可能。
- ・加熱炉等の燃料をカーボンフリー水素に転換することで、Hofors工場の加熱工程で発生するGHG(温室効果ガス)の約50%(約2万t/年)を削減可能。
- ・このたび完成した水素プラントの稼働で得られる知見等を踏まえ、2030年をひとつの目途として各製鉄所での水素生成プラント導入を検討するなど、気候変動問題へのさらなる取り組みを推進していく。



OVAKO水素プラントの電解装置

豊かな自然に恵まれたスウェーデンは、脱化石電力(水力、風力、原子力)比率が圧倒的に高く、産業用電力料金は日本の1/2~1/3程度

OVAKO
Hofors工場



カーボンフリー水素プラント開所式

2023年9月5日にスウェーデンのクリスターソン首相をはじめとする多数の来賓列席のもと、開所式を挙げる。

(中央)スウェーデン首相、
(左)当社代表取締役社長、
(右)OVAKO CEO



インド子会社SSMIの取り組み

再エネ由来電力の活用や燃料転換、省エネを推進

再エネ由来電力の活用や、従来の燃料油からクリーンで効率的な天然ガスへの燃料転換、エネルギー効率の高い生産プロセスや設備の導入等を推進。

SSMIロードマップ

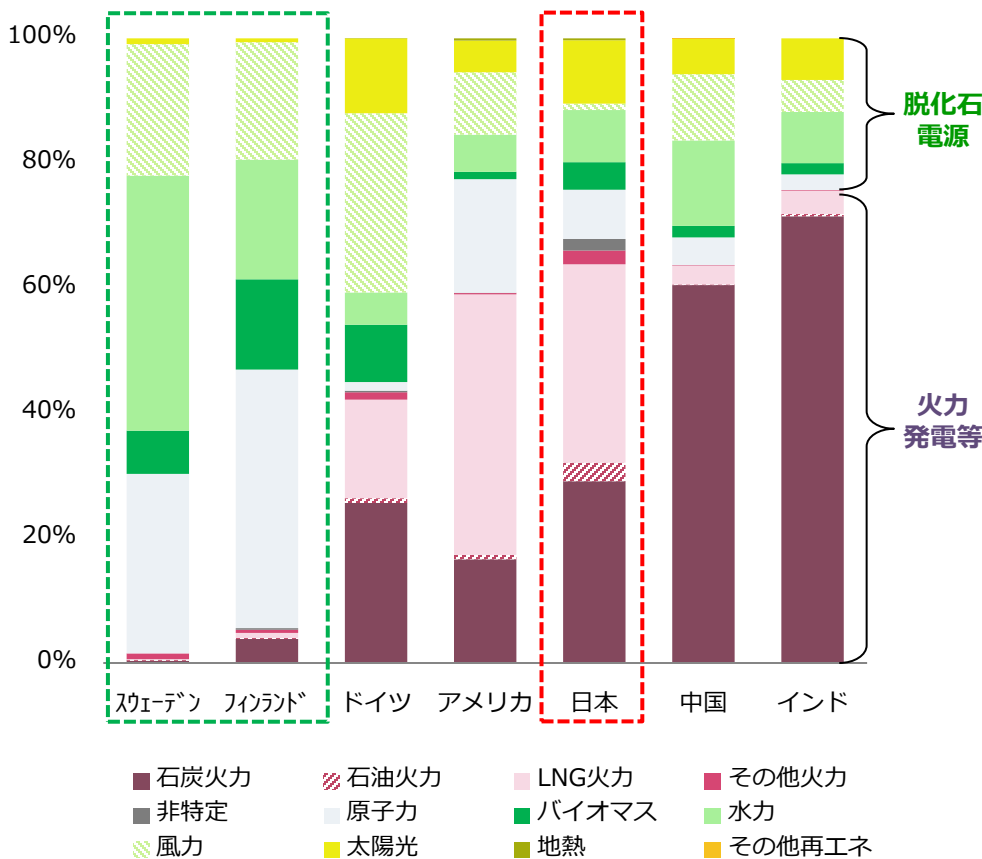


Tata Powerグループと太陽光発電による再エネ由来電力の購入契約を締結

各国の電源構成と産業用電力価格

電源構成(2023年)

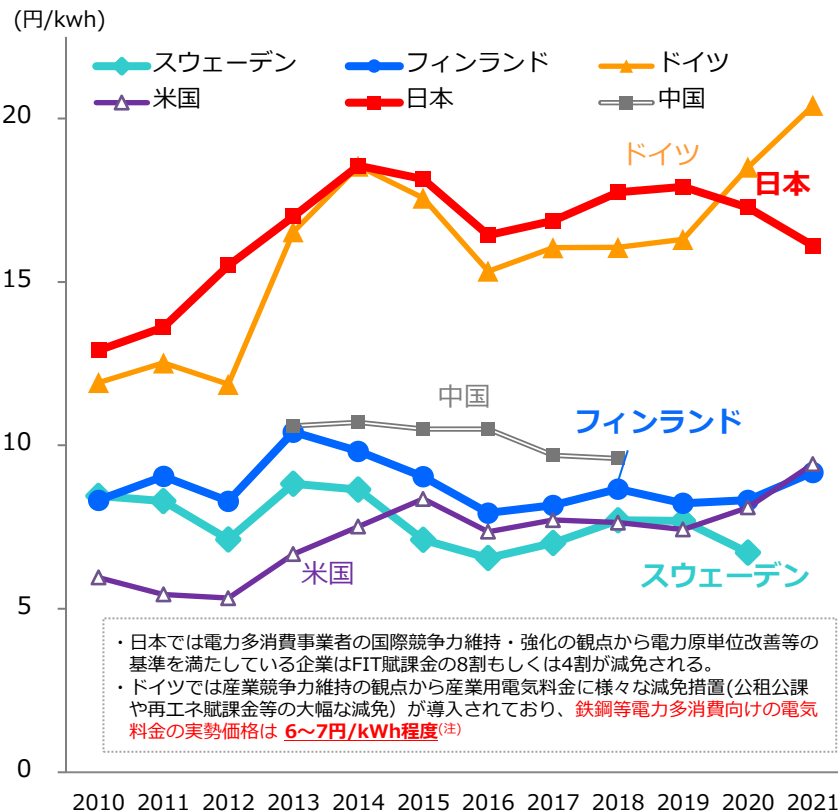
OVAKOの生産拠点が立地するスウェーデン、フィンランドは脱化石電力(水力、風力、原子力)比率が圧倒的に高い。



※ IEA(国際エネルギー機関)「Monthly Electricity Statistics」より当社作成

産業用電力価格の推移

スウェーデン、フィンランドの産業用電力価格は日本の1/2~1/3程度。



・日本では電力多消費事業者の国際競争力維持・強化の観点から電力原単位改善等の基準を満たしている企業はFIT賦課金の8割もしくは4割が減免される。
 ・ドイツでは産業競争力維持の観点から産業用電気料金に様々な減免措置(公租公課や再エネ賦課金等の大幅な減免)が導入されており、鉄鋼等電力多消費向けの電気料金の実勢価格は6~7円/kWh程度(注)

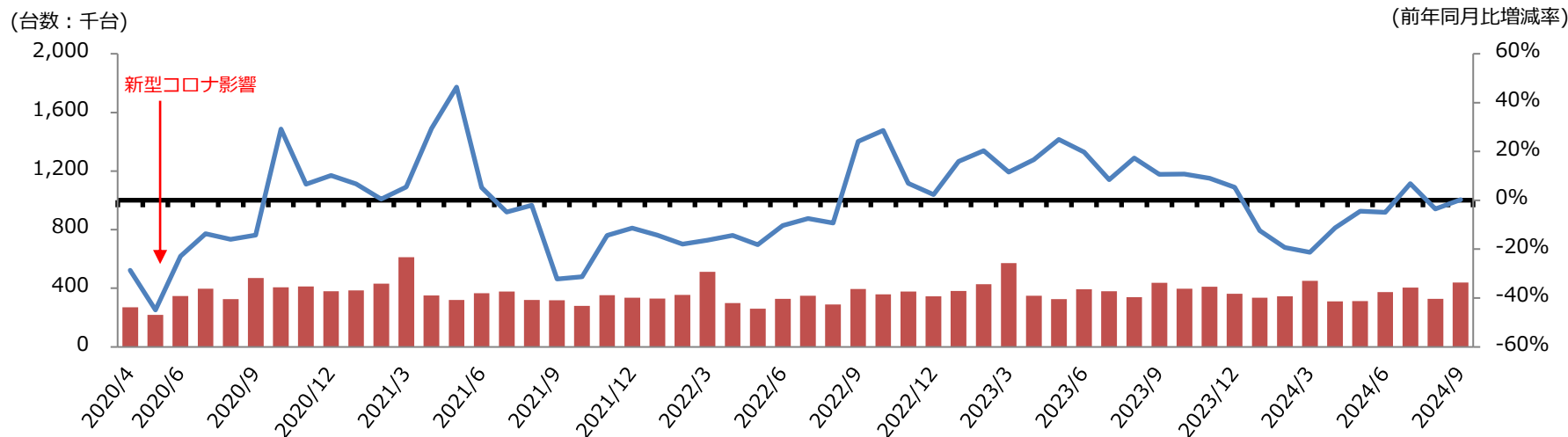
※ スウェーデン・フィンランド・ドイツ・米国・日本については英国ビジネス・エネルギー・産業戦略省「Industrial electricity prices in the IEA」より、中国については、(公財)自然エネルギー財団「中国の電力システム改革」より当社作成

(注) 国際環境経済研究所「海外のカーボンプライシングの実態」

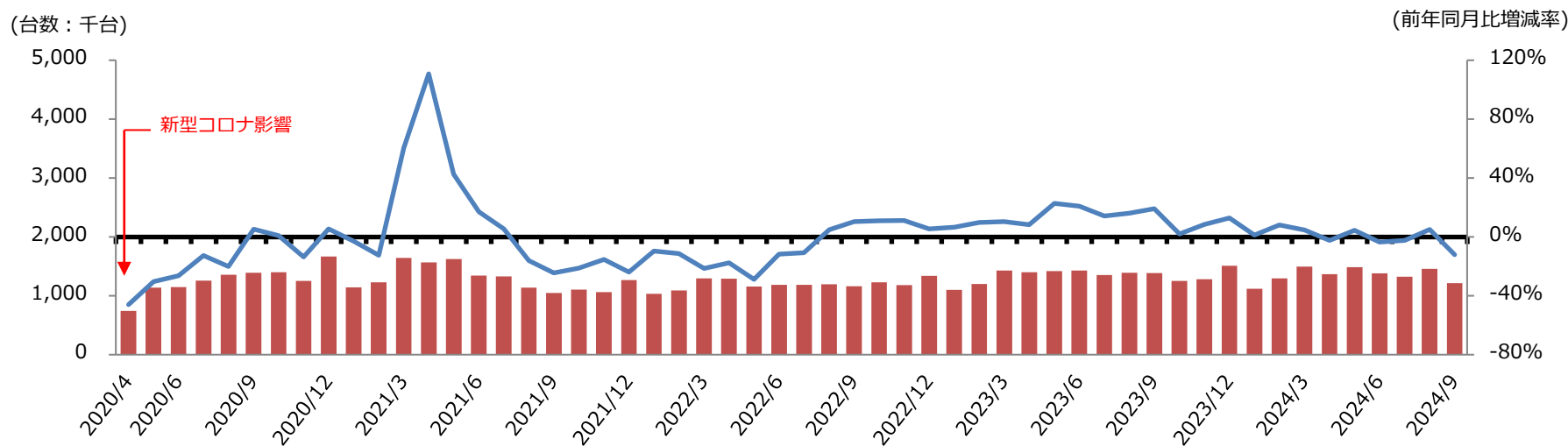
6. 參考資料

自動車市場の動向

日本自動車販売台数 出典：マークラインズ

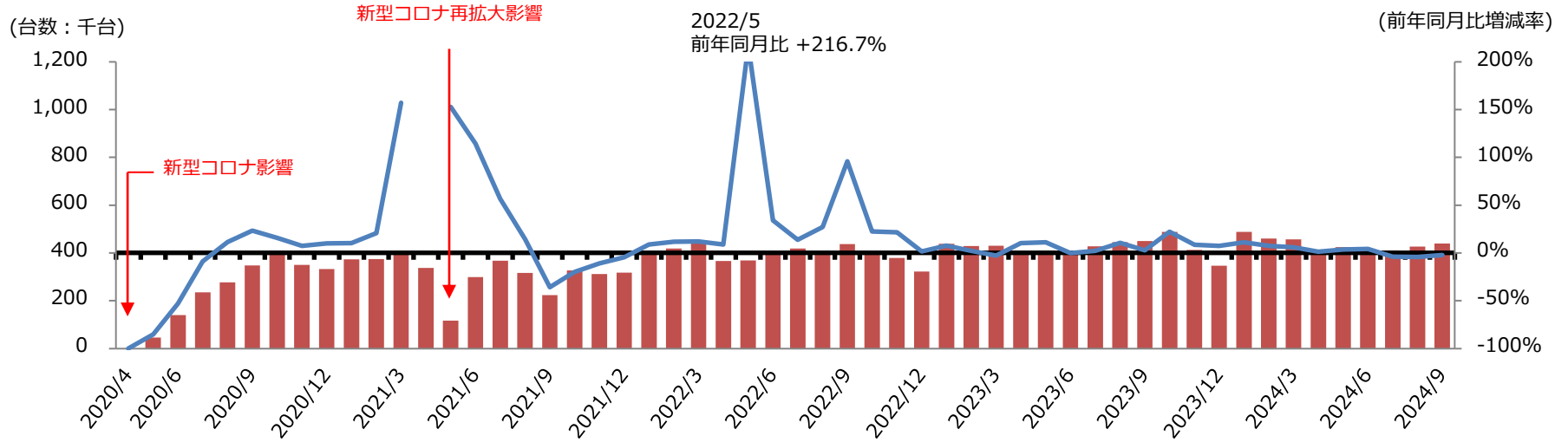


米国自動車販売台数 出典：マークラインズ

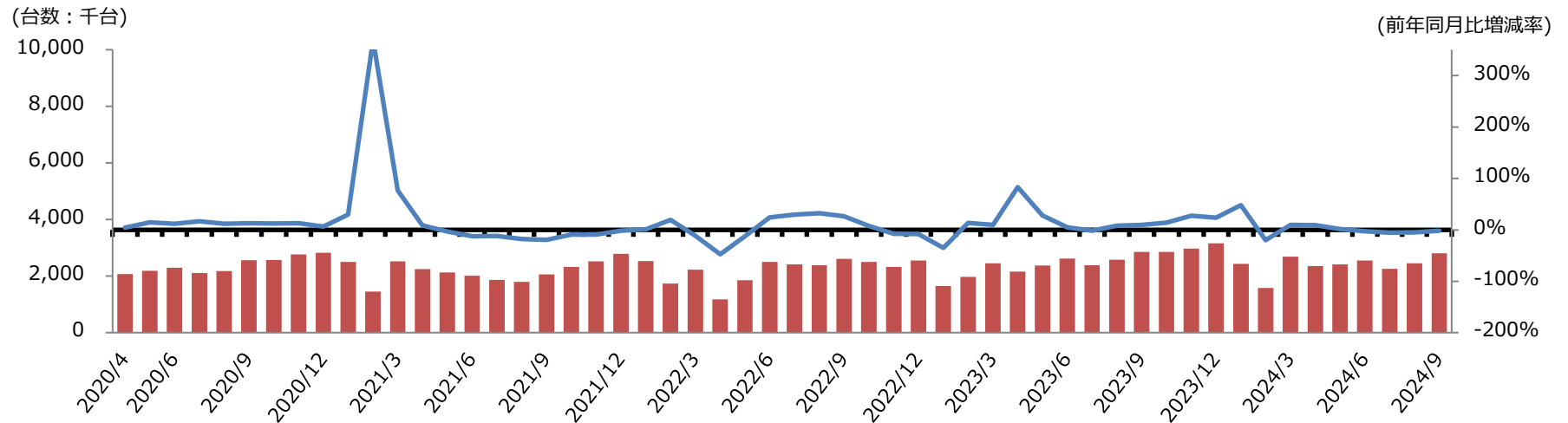


自動車市場の動向

インド自動車販売台数 出典：マークラインズ

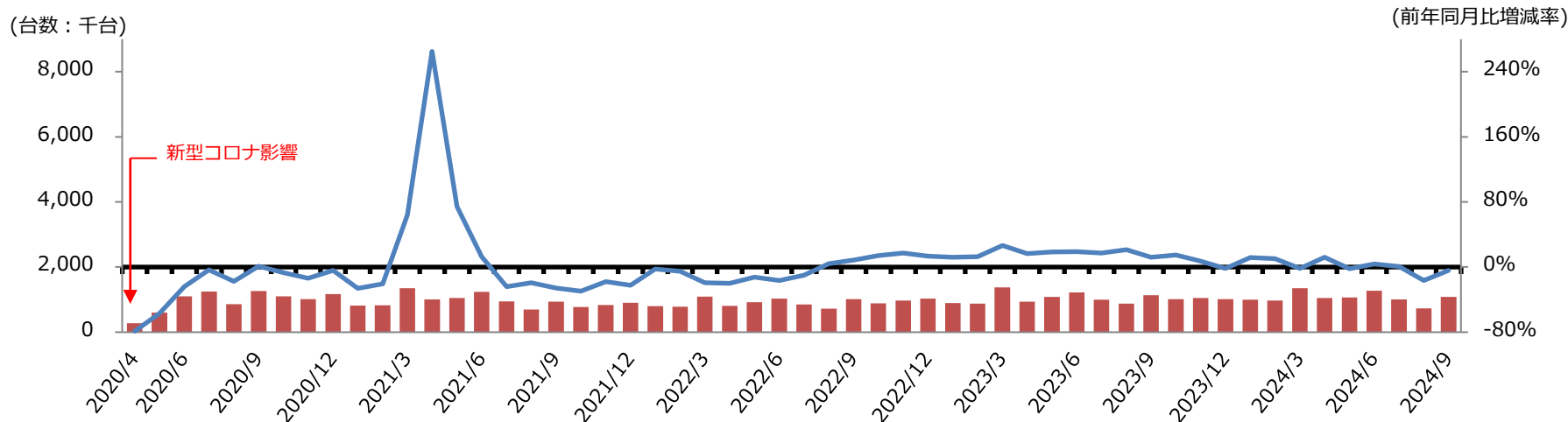


中国自動車販売台数(工場出荷台数ベース) 出典：マークラインズ

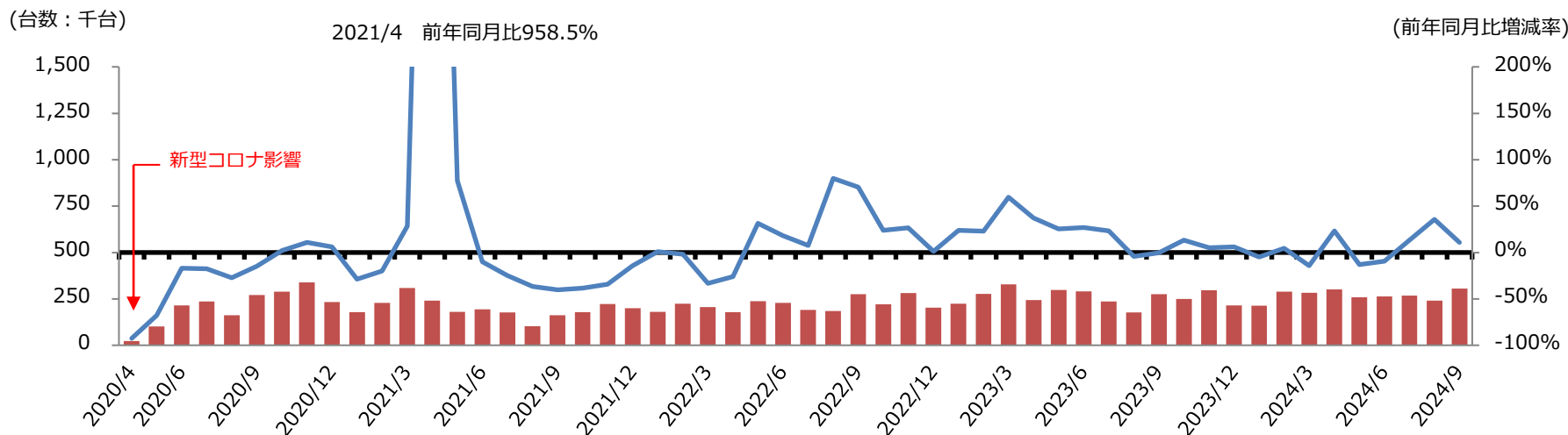


自動車市場の動向

欧州自動車販売台数 出典：ACEA

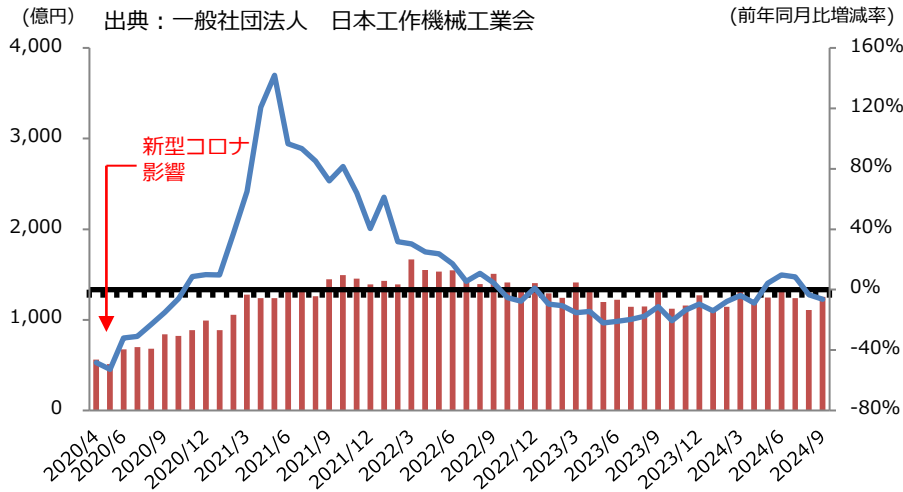


ドイツ自動車輸出台数 出典：VDA

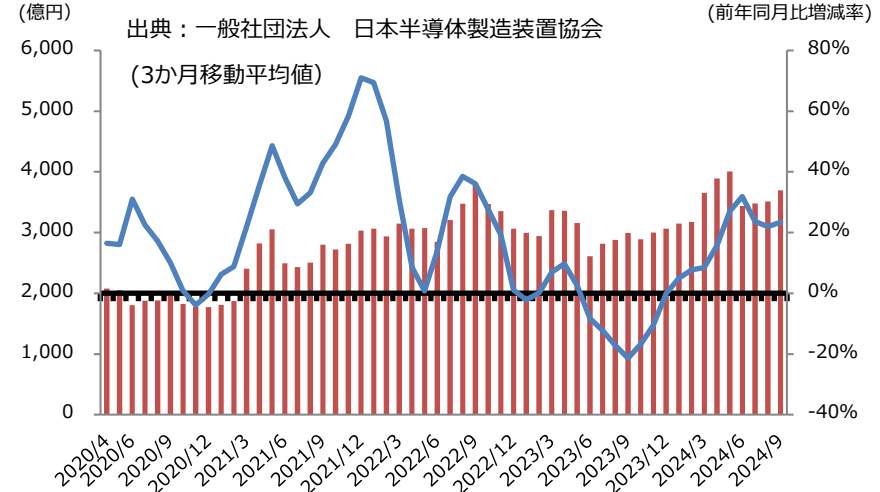


産業機械・建設機械市場の動向

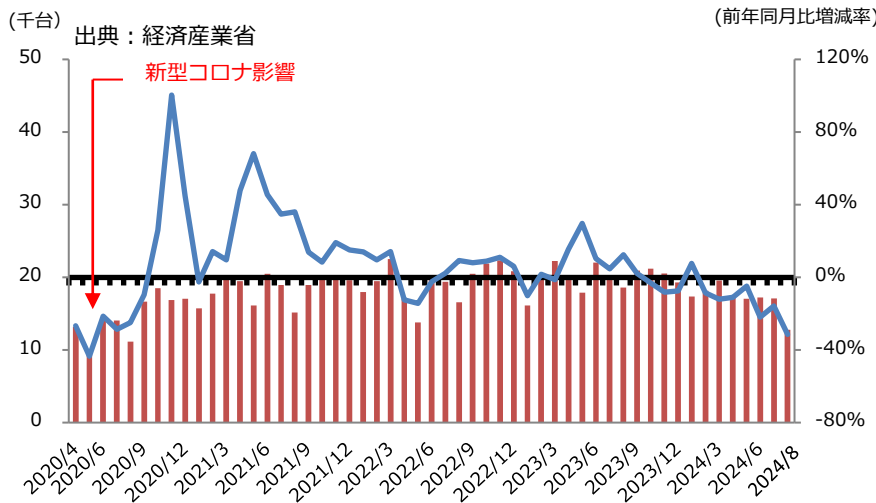
工作機械受注金額(日本)



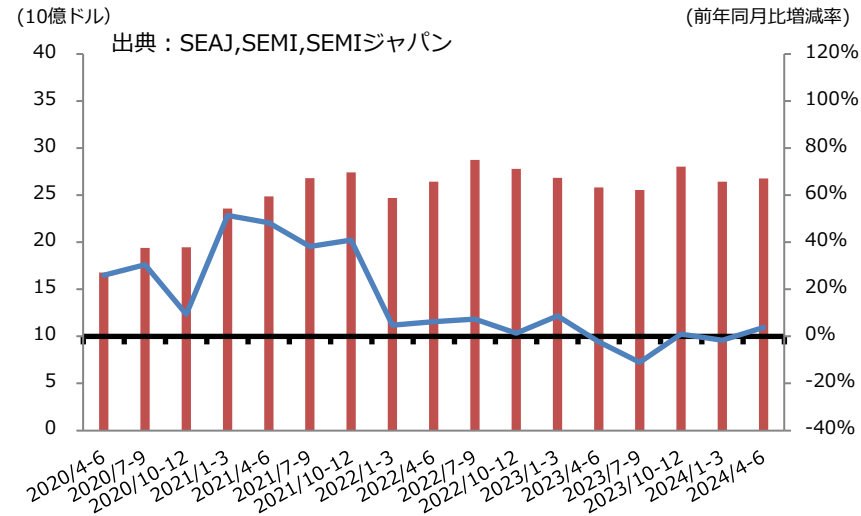
半導体製造装置販売金額(日本)



ショベル系建設機械国内生産台数

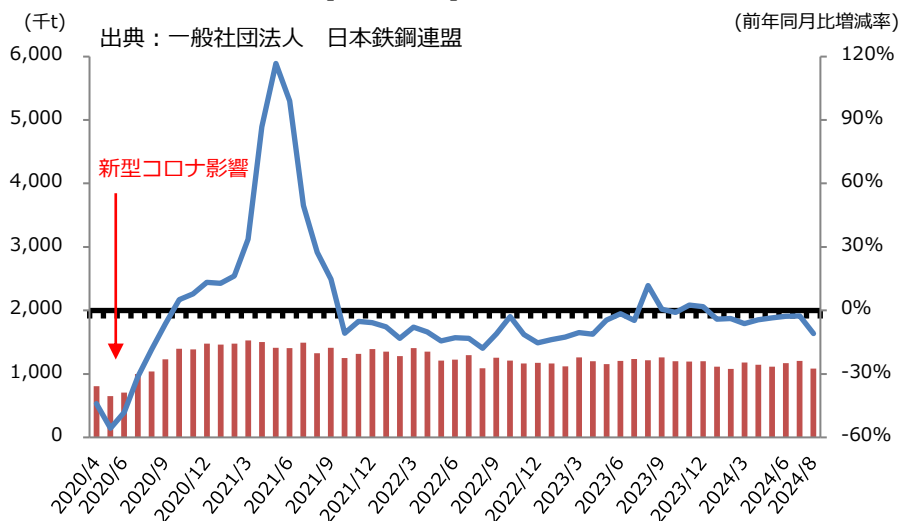


半導体製造装置販売金額(世界)

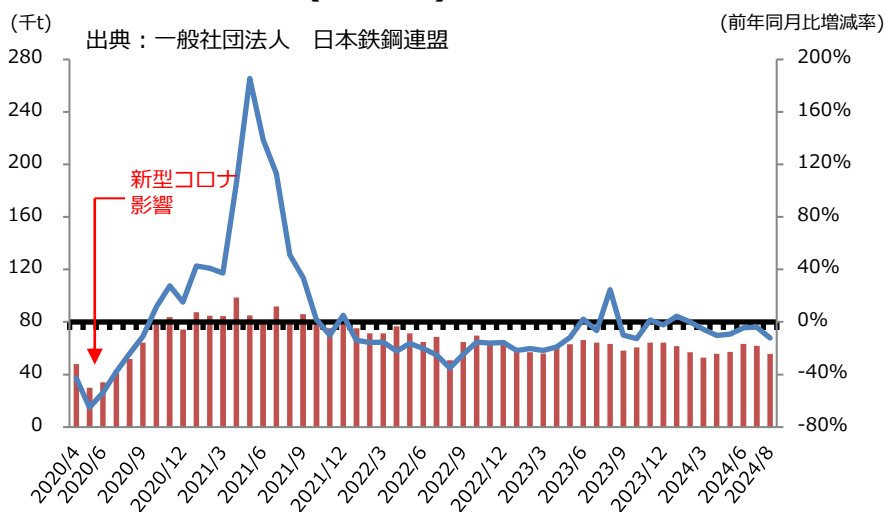


特殊鋼需要の動向

日本特殊鋼受注数量(特殊鋼)



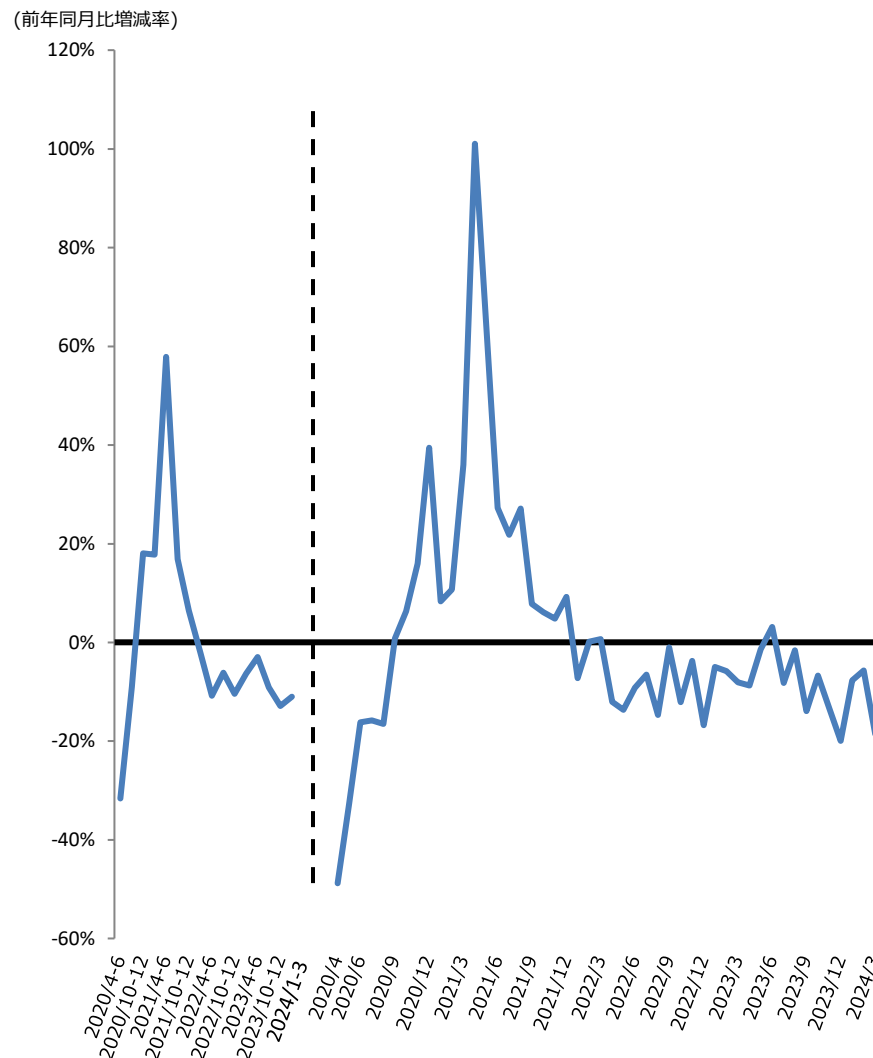
日本特殊鋼受注数量(軸受鋼)



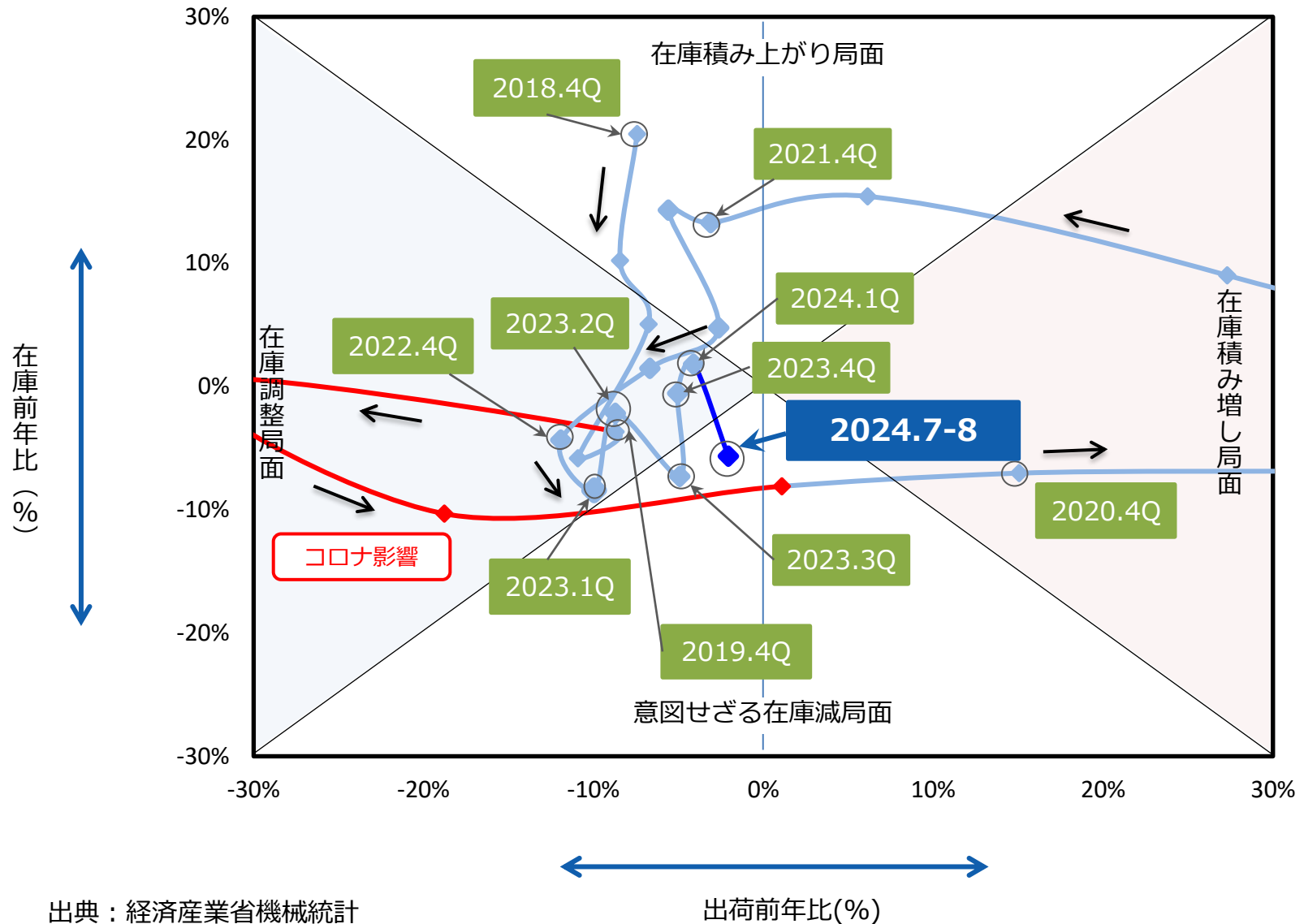
欧州デリバリー数量

棒鋼&平鋼/構造用合金鋼

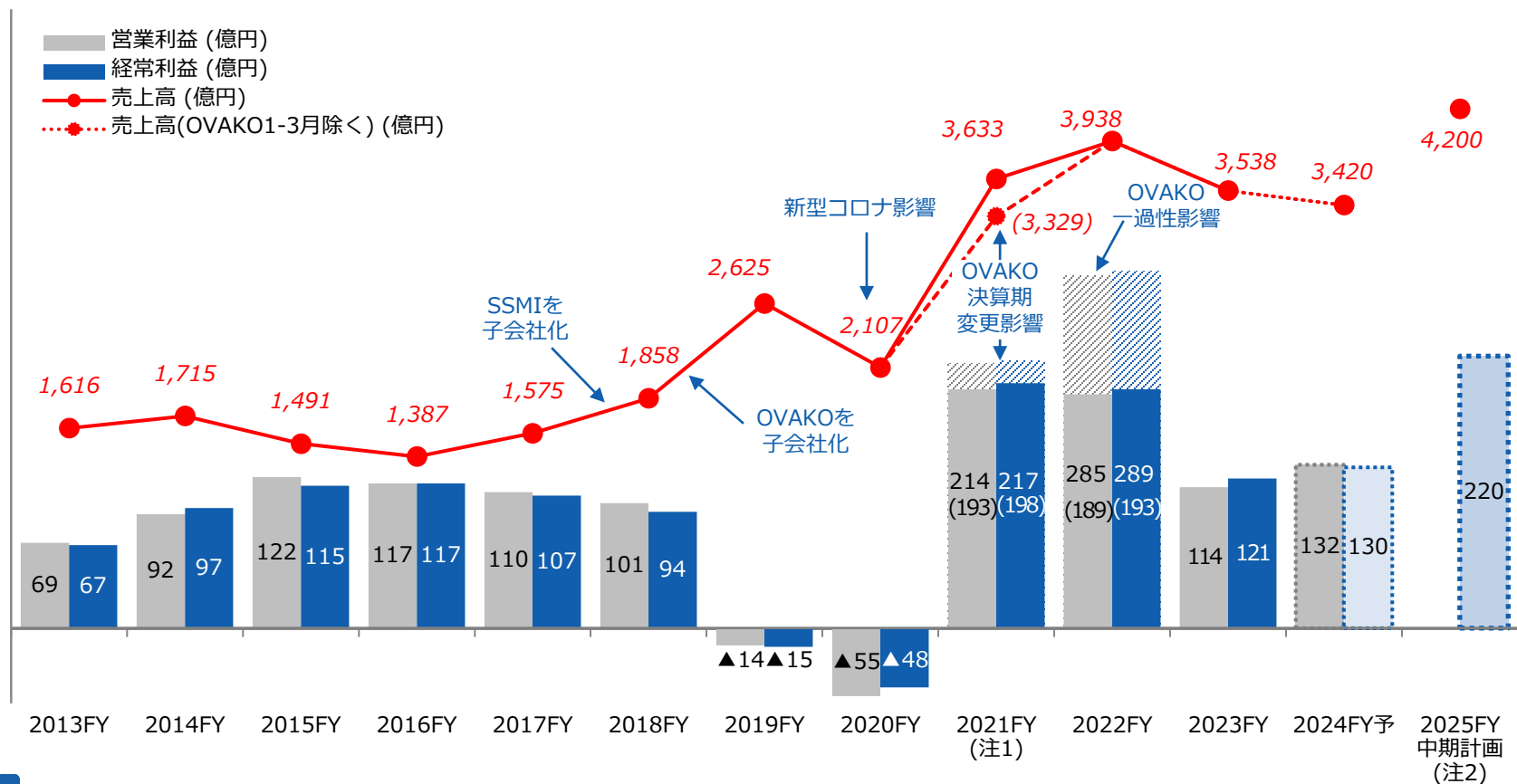
出典：欧州鉄鋼連盟



軸受在庫循環図



業績推移(年度)



ROE

4.1% 6.1% 6.6% 6.6% 5.6% 4.8% -2.0% -3.9% 8.1% 10.1% 4.1% 4.1% 7%

ROE(のれん償却費除く)

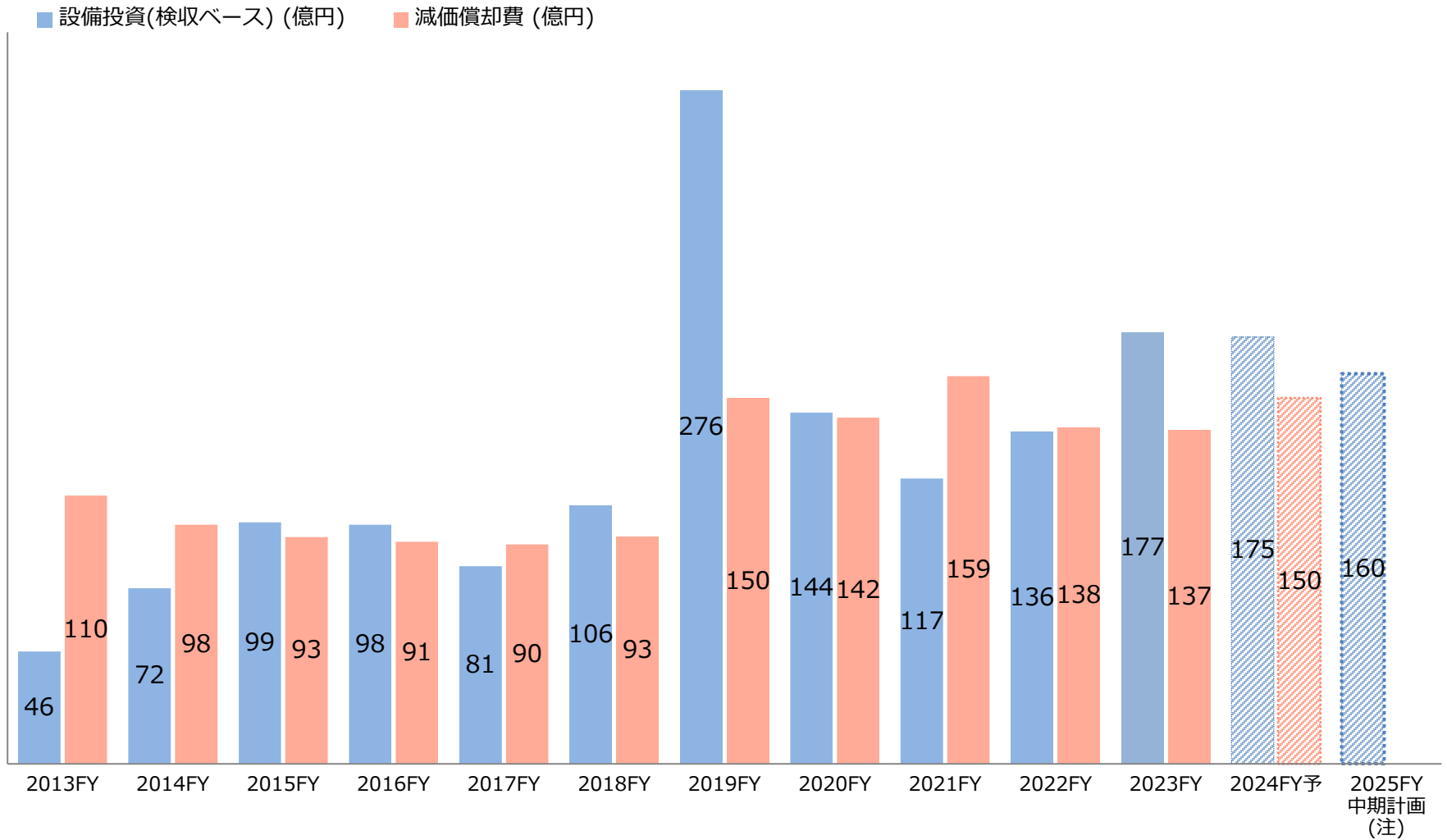
4.1% 6.1% 6.6% 6.6% 5.6% 4.8% 0.3% -2.4% 9.9% 11.5% 5.6% 5.6% 8%

(注1)2021FYのOVAKOおよびのれん償却費は2021年1月～2022年3月の15カ月の数値

(注2)2023年7月28日公表値

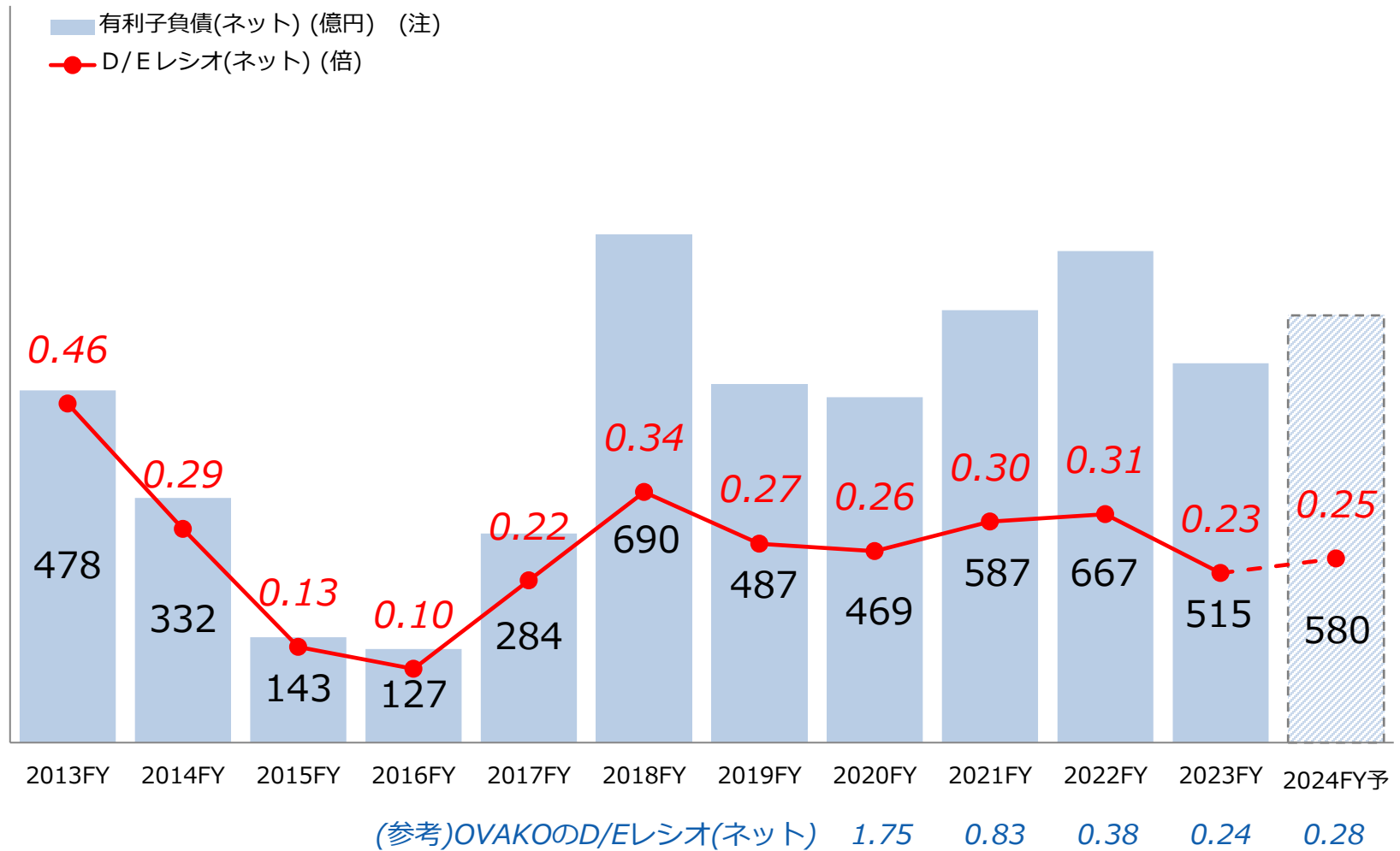
(注3)SSMIは2018FY2Qから、OVAKOは2019FY1Qから損益を連結

設備投資・減価償却費の推移



(注)2023年7月28日公表値

D/Eの推移



(注)有利子負債(ネット)は、有利子負債残高から現預金および関係会社預け金残高を控除したものの

損益の詳細 (対2023FY上期)

(単位：億円、円/株)

	2024FY上期 (A)	2023FY上期 (B)	増減 (A) - (B)	増減率 (%)
売上高	1,684	1,853	-168	-9.1
内、当社単独	808	962	-154	-16.0
内、OVAKO	708	741	-33	-4.4
内、SSMI	120	112	+9	+7.7
営業利益	31	73	-42	-57.6
内、当社単独	24	27	-3	-11.1
内、OVAKO	24	56	-32	-57.1
内、SSMI	6	5	+1	+19.0
内、のれん償却費	▲17	▲16	-1	-
経常利益	26	78	-52	-66.3
内、当社単独	53	69	-16	-22.9
内、OVAKO	21	51	-30	-59.4
内、SSMI	4	3	+1	+25.0
内、のれん償却費	▲17	▲16	-1	-
税後利益 (注1)	15	52	-37	-70.7
1株当たり税後利益	28.2	96.1	-67.9	-70.7
のれん償却費を除く営業利益	48	89	-41	-45.9
のれん償却費を除く経常利益	43	94	-51	-53.8
のれん償却費を除く税後利益	32	68	-36	-52.4
のれん償却費を除く1株当たり税後利益	59.6	125.3	-65.7	-52.4
売上数量 (千t)	683	739	-56	-7.6
内、当社単独	367	427	-60	-14.1
内、OVAKO	259	256	+4	+1.5
内、SSMI	56	56	+0	+0.1

(注1)親会社株主に帰属する中間純利益

(注2)SSMI：1月～6月の数値

損益の詳細 (業績予想 2024/10/31公表 対前年度)

(単位：億円、円/株)

	2024FY			2023FY			増減 (C)-(F)
	上期実績	下期今回予想	通期今回予想	上期	下期	通期	
	(A)	(B)	(C)=(A)+(B)	(D)	(E)	(F)=(D)+(E)	
売上高	1,684	1,736	3,420	1,853	1,686	3,538	-118
内、当社単独	808	812	1,620	962	820	1,782	-162
内、OVAKO	708	742	1,450	741	699	1,440	+10
内、SSMI	120	130	250	112	117	229	+21
営業利益	31	101	132	73	40	114	+18
内、当社単独	24	48	72	27	16	43	+29
内、OVAKO	24	41	65	56	34	89	-24
内、SSMI	6	8	14	5	5	10	+4
内、のれん償却費	▲17	▲17	▲34	▲16	▲17	▲32	-2
経常利益	26	104	130	78	43	121	+9
内、当社単独	53	62	115	69	21	90	+25
内、OVAKO	21	34	55	51	34	84	-29
内、SSMI	4	6	10	3	4	7	+3
内、のれん償却費	▲17	▲17	▲34	▲16	▲17	▲32	-2
税後利益 (注1)	15	80	95	52	38	91	+4
1株当たり税後利益	28.2		174.4	96.1		166.2	+8.2
のれん償却費を除く営業利益	48	118	166	89	57	146	+20
のれん償却費を除く経常利益	43	121	164	94	60	154	+10
のれん償却費を除く税後利益	32	97	129	68	55	123	+6
のれん償却費を除く1株当たり税後利益	59.6		236.8	125.3		225.8	+11.0
売上数量 (千t)	683	725	1,408	739	690	1,429	-21
内、当社単独	367	390	757	427	379	806	-49
内、OVAKO	259	276	535	256	252	508	+28
内、SSMI	56	59	116	56	59	115	+1

(注1)親会社株主に帰属する当期純利益

(注2)SSMI：1月～12月の数値

損益の詳細 (業績予想 2024/10/31公表 対前回予想)

(単位：億円、円/株)

	2024FY			2024FY			増減 (C)-(F)
	上期実績	下期今回予想	通期今回予想	上期前回予想	下期前回予想	通期前回予想	
	(A)	(B)	(C)=(A)+(B)	(D)	(E)	(F)=(D)+(E)	
売上高	1,684	1,736	3,420	1,650	1,800	3,450	-30
内、当社単独	808	812	1,620	800	830	1,630	-10
内、OVAKO	708	742	1,450	695	785	1,480	-30
内、SSMI	120	130	250	120	140	260	-10
営業利益	31	101	132	26	97	123	+9
内、当社単独	24	48	72	13	45	58	+14
内、OVAKO	24	41	65	24	48	72	-7
内、SSMI	6	8	14	6	8	14	-
内、のれん償却費	▲17	▲17	▲34	▲17	▲17	▲34	-
経常利益	26	104	130	25	105	130	-
内、当社単独	53	62	115	47	58	105	+10
内、OVAKO	21	34	55	23	42	65	-10
内、SSMI	4	6	10	4	6	10	-
内、のれん償却費	▲17	▲17	▲34	▲17	▲17	▲34	-
税後利益 (注1)	15	80	95	12	83	95	-
1株当たり税後利益	28.2		174.4	22.0		174.4	-
のれん償却費を除く営業利益	48	118	166	43	114	157	+9
のれん償却費を除く経常利益	43	121	164	42	122	164	-
のれん償却費を除く税後利益	32	97	129	29	100	129	-
のれん償却費を除く1株当たり税後利益	59.6		236.8	53.2		236.8	-
売上数量 (千t)	683	725	1,408	671	767	1,438	-30
内、当社単独	367	390	757	362	405	767	-10
内、OVAKO	259	276	535	253	296	549	-14
内、SSMI	56	59	116	56	66	122	-6

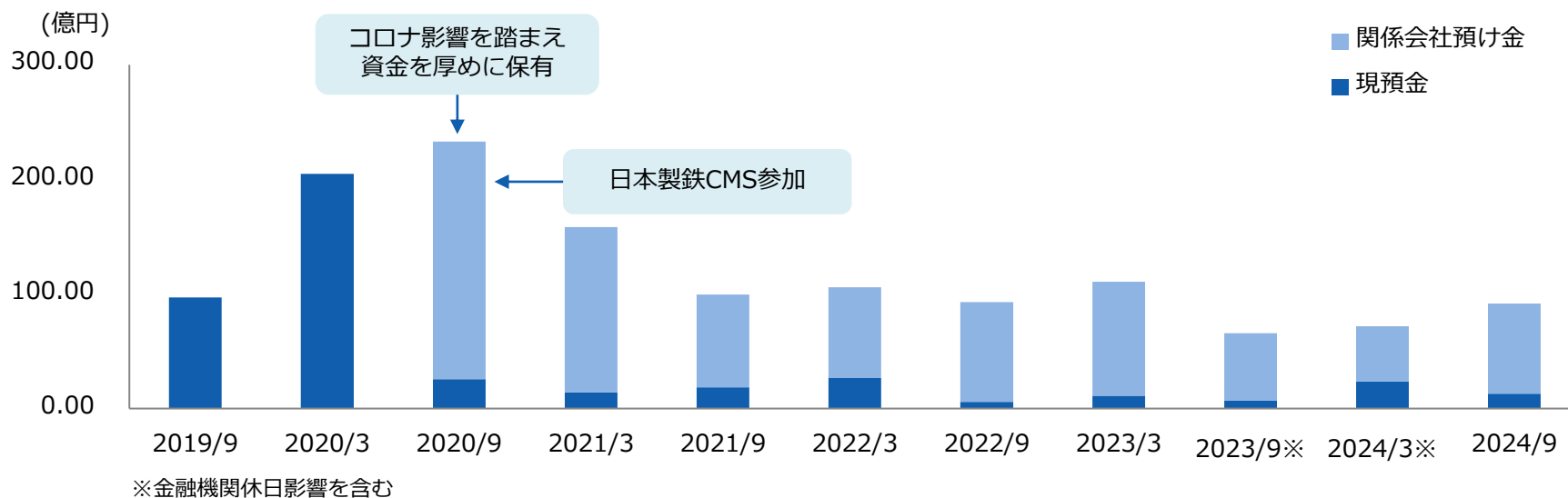
(注1)親会社株主に帰属する当期純利益

(注2)SSMI：1月～12月の数値

関係会社預け金

- 2020年6月より、日本製鉄の連結キャッシュマネジメントシステムに参加。
- 当社の日々の残高を日本製鉄に預けるとともに、当社として資金所要があればいつでも引き出し可能。
- 万が一当社に資金ショートが発生した場合には、自動的に緊急融資がされる仕組み。
(資金のセーフティネットとして機能)
- 従来の現預金の保有では得られなかった利息を受領できる。
- 会計処理上は、預け金という形になっているが、必要に応じて当社の運転資金となるものであるため、従来の現預金という性質には変わらない。

関係会社預け金を含む現預金等の推移(単独)



(ご注意)

本資料の業績予想等は、本資料の発表日現在において、入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。いかなる確約や保証を行うものではありません。

SANYO SPECIAL STEEL - the Confident Choice



<https://www.sanyo-steel.co.jp/>